

平成30年度  
(2018年度)

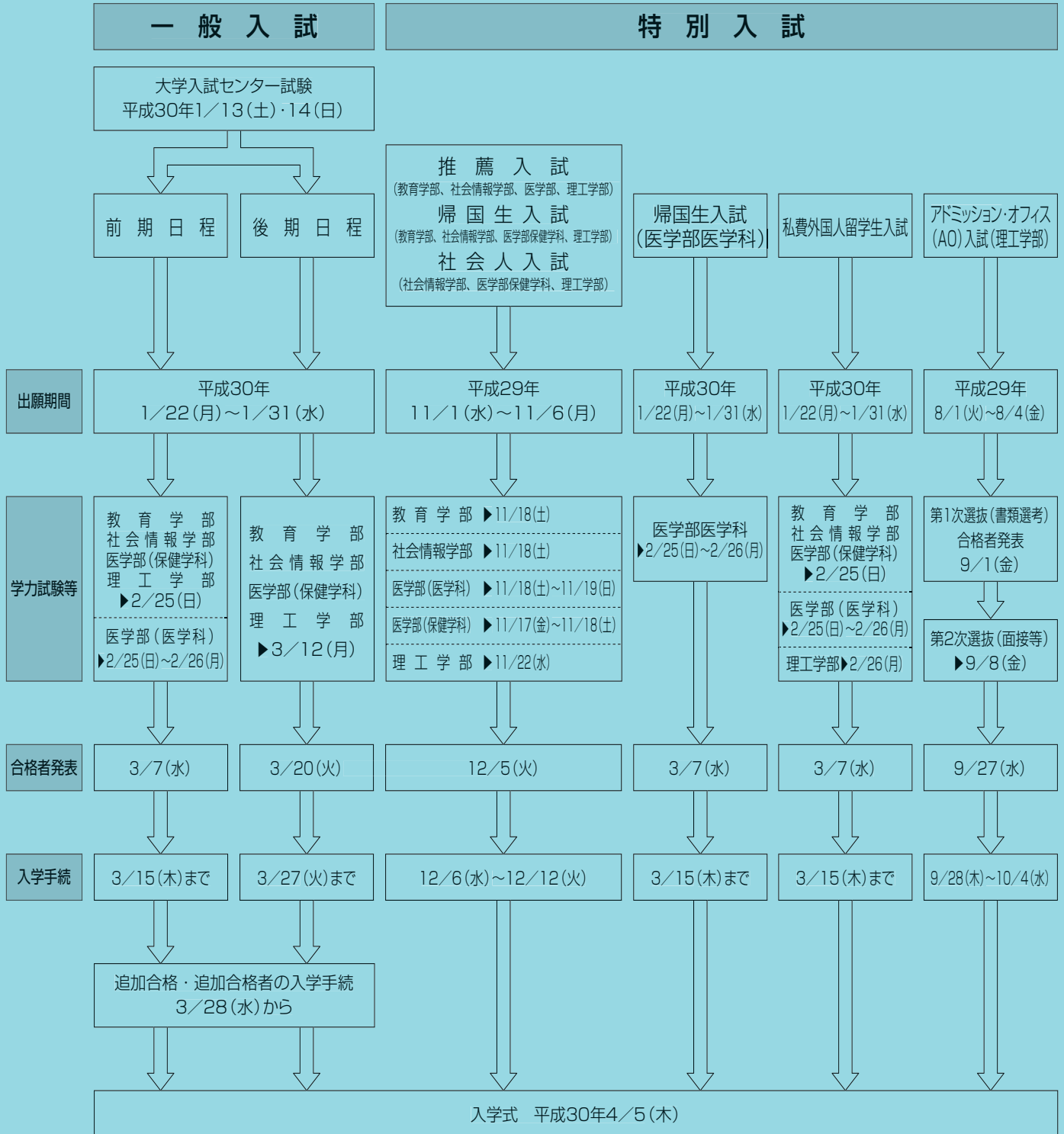
# 推薦入試学生募集要項

~~(入学願書在中)~~



群馬大学  
GUNMA UNIVERSITY

## 群馬大学入学者選抜日程の概要



本学では、これらの入学者選抜のほか、編入学試験を実施します(教育学部を除く)。詳細については、裏表紙「入学試験に関する問合せ先」の各学部入試担当係へ問合せください。

## 【群馬大学志願者の入学検定料免除について】

群馬大学では、東日本大震災及び風水害等の災害に罹災した志願者の進学のを支援する観点から、特別措置として検定料の全額を免除します。

免除の対象となる災害及び被災地域など、免除に関する詳細については、本学のホームページを御覧ください。

## 目 次

群馬大学の教育ポリシー	1
各学部の教育ポリシー	3
1. 推薦入試を実施する学部・学科等及び募集人員	11
2. 推薦入試の出願資格及び出願要件	11
3. 推薦人員	17
4. 出願手続	17
5. 選抜方法	22
6. 障害等のある入学志願者との事前相談について	26
7. 合格者の発表等	27
8. 受験心得	27
9. 入学手続等	27
10. 一般入試等への出願について	29
11. 入学準備	29
12. 入学願書等の記入上の注意	32
13. 別記 教育学部実技試験の内容等	33
14. 平成30年度入試情報開示について	35
15. 入学志願者の個人情報保護について	35
◎受験の際の宿泊について	36
◎試験場までの交通案内	36
各学科・専攻の教育ポリシー	
教育学部	
国語専攻	39
社会専攻	41
数学専攻	43
理科専攻	45
音楽専攻	47
美術専攻	49
保健体育専攻	51
障害児教育専攻	53
医学部保健学科	
看護学専攻	55
検査技術科学専攻	58
理学療法学専攻	60
作業療法学専攻	62

理工学部	
化学・生物化学科	64
機械知能システム理工学科	66
環境創生理工学科（環境エネルギーコース）	69
環境創生理工学科（社会基盤・防災コース）	71
電子情報理工学科（電気電子コース）	73
電子情報理工学科（情報科学コース）	75
コンビニエンスストア・クレジットカードでの検定料支払方法	77

〔添付書類〕

平成30年度群馬大学推薦入試出願書類等確認票

様式 1	推薦入試入学願書
様式 2	推薦書
別紙	推薦書記入上の注意
様式 3	適性資質調査書（医学部医学科志願者用）
別紙	適性資質調査書記入上の注意等
様式 4	検定料振込用紙
様式 5	振込金受付証明書・検定料収納証明書貼付台紙
様式 6・7	推薦入試照合票・受験票（教育学部志願者用）
様式 8・9	推薦入試照合票・受験票（社会情報学部・医学部・理工学部志願者用）
様式10	宛名票
様式11	志願理由書（教育学部及び社会情報学部志願者用）
様式12	志願理由書（医学部医学科地域医療枠志願者用）
様式13	実技試験に関する届出用紙（教育学部音楽専攻志願者用）
様式14	作品制作証明書（作品写真）（教育学部美術専攻志願者用）
様式15	美術活動調査書（教育学部美術専攻志願者用）
様式16	スポーツ活動調査書（教育学部保健体育専攻志願者用）
封筒	受験票等送付用（長3＝1枚）・入学願書出願用（角2＝1枚）

※ 試験の実施に関して不測の事態（災害・事故等）が生じた場合は、本学ホームページ（入試案内）に掲載しますので、御確認ください。なお、追試験は、原則実施しません。

群馬大学ホームページ： <http://www.gunma-u.ac.jp/>

※ 試験前日又は試験当日に、最寄りの駅・バス停から試験場周辺にかけて勧誘や物品の販売等が行われていることがあります。これらの行為は群馬大学とは何ら関係がありません。不当な料金を請求される等のトラブルに巻き込まれないよう十分注意してください。そのような事故が生じても、群馬大学は一切責任を負いません。



[https://page.line.me/gunma\\_uni\\_ad](https://page.line.me/gunma_uni_ad)



[https://twitter.com/gunma\\_uni\\_ad](https://twitter.com/gunma_uni_ad)

※ LINEとTwitterから入試情報をリアルタイムでお届けします。

## 必ずお読みください

### 群馬大学の教育ポリシー

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

#### <入学者に求める能力・資質>

群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある。
- 2 専門分野を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探究心、コミュニケーション能力を持っている。
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている。
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある。
- 5 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている。
- 6 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている。

#### <入学者選抜の方針・方法>

群馬大学は、本学で学びたい学生に対し、その多面的な能力を評価し選抜するために、多様な受験機会・入学試験を提供します。また、本学の国際化推進基本計画に基づいて、海外からの留学生を積極的に受け入れる方針の下、受験機会を提供します。

本学の教育の目標、求める能力・資質に合致する学生を選抜するために、一般入試（前期・後期）の他に、特別入試としてAO入試、推薦入試、帰国生入試、社会人入試、私費外国人留学生入試、3年次編入学試験等の入学試験を実施します。本学の入学試験では、それぞれの学部・学科・課程の専門・特性に合わせて、大学入試センター試験、個別学力検査、実技等試験、調査書、活動歴、面接、小論文等を組み合わせて、総合的に合否を判定します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

#### <教育課程編成と教育方法>

全学的な協力体制の下、教養教育と専門教育の融合を図り、幅広く深い教養、豊かな知性と感性、総合的な判断力、専門分野の基礎的能力を育成するため、学生の潜在能力を最大限引き出せる教育課程を編成し、実施します。本学の基本理念及び教育の目標を達成するために、本学の教育課程（カリキュラム）は以下の方針で編成されています。

- 1 カリキュラム・ポリシーを具現化するカリキュラム・マップに従った系統的な教育と、授業科目の目標・内容・教育方法・達成度（成績）評価方法等について詳述されたシラバスに基づいた教育を実施し、アクティブ・ラーニング等の学生の自主的な学修意欲を促す教育、授業時間外自己学修や学修の振り返りを促す教育等を幅広く行う。
- 2 学士課程教育においては、全学共通の教養科目、学部別科目（専門基礎科目、一部の学部で開設）、及び専門科目、加えて学部独自の教養教育科目を、互いの融合を図りながら編成する。

- 3 全学共通の教養科目は、学士力の育成の基礎となる教養基盤科目と、幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性の涵養につながる教養育成科目の二つの科目群から構成される。個別の領域の知識を学ぶのではなく、それらを統合していく考え方の修得及び各学問分野に共通の思考・判断・表現法の修得につながる教育を行うことにより、学生が自らの教養と主体性を構築していくことを促し、また外国語も含めた汎用的技能の基盤を培い、アイデンティティの確立した知識人としての考え方ができる人材を育成する教育を行う。
- 4 専門教育を学ぶ上で必須となる基礎的知識や技能の修得を目的に、高校教育と大学における専門教育との円滑な接合を助け、その分野の基本的リテラシーについて学ぶ教育を行う。また、専門分野に関連する分野についての基礎的理解と新しいアイデアを引き出すことに役立つ知識・技能の修得を図り、専門分野の知識・理解・技能の質の更なる向上を目指す教育を展開する。
- 5 専門科目においては、次の能力の養成に向けた教育を行う。
  - (1) 専門分野の内容、社会的意義と限界を深く理解し、他者に説明・表現できる能力
  - (2) 専門分野に関係する諸分野についての基礎的理解があり、客観的な評価ができる能力
  - (3) 自らの専門分野の視点から現代世界が直面する諸変化の特性・特質を理解し、生起する諸課題について探究し、課題解決に実践的に取り組んでいくことができる能力

#### <学修成果の評価>

シラバスに記載の達成度（成績）評価方法に基づいて行います。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

#### <卒業認定・学位授与の条件>

- 1 以下の学修達成目標及び所属する学部・学科・課程が定める学位授与の要件を満足していること。
- 2 所定の年限在学し、かつ所属する学部・学科・課程が定める単位を修得していること。

#### <学修成果の目標>

##### 専門的学識、技能

- 1 所属する学部・学科・課程の専門分野において求められる専門的学識・技能を修得し、現実の諸課題に対してその活用ができる。

##### 幅広い教養、学際性

- 2 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。

##### 論理的思考力、コミュニケーション力

- 3 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。

##### 社会人としての自覚、国際性

- 4 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。



## 必ずお読みください

### 教育学部の教育ポリシー

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

- 1 教職を目指す明確な意志と情熱を有する人
- 2 児童・生徒の成長に関わることに喜びを感じられる人
- 3 周囲とのコミュニケーション能力や協調性を備える人
- 4 諸課題の解決に向けて粘り強く努力できる人
- 5 系・専攻に関する事項に関心を持ち、教職を目指すために必要な基礎学力を有する人

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

- 1 学校教員に求められる幅広い教養を培う教育
- 2 教育に関わる様々な理論に裏付けられた、現実の教育問題を考える力を養う教育
- 3 教科についての専門的知識を高める教育
- 4 教科指導法など、学校教員として必要となる知識・技術を培う教育
- 5 教育実習などの体験的学習を通して、実践的指導力を養う教育
- 6 卒業研究を通して、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を養う教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

- 1 優れた人間性と豊かな教養を有している者
- 2 各教科の内容について、深い認識を有している者
- 3 各教科について、実践的な指導力を有している者
- 4 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有している者
- 5 子どもの成長・発達とそれを支える大人の役割について、十分に理解している者
- 6 子ども、親、同僚などとコミュニケーションをとることができる者

※ 各専攻の教育ポリシーについては、39～54ページ参照。

## 必ずお読みください

### 社会情報学部の教育ポリシー

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

#### <人材育成の目標>

社会で情報が生産・流通・加工・蓄積・活用される過程に関する知識を有し、批判的な思考・判断によって高度情報社会の課題を発見し、その解決を科学的な思考と実践的な情報処理やデータの収集・分析によって提案できる人材の育成

#### <入学者に求める能力・資質>

- 1 社会の仕組みや情報技術に関する基本的な知識を持つ人
- 2 科学的な考え方や基本的な分析手法を身に付けている人
- 3 思考力・表現力の基礎となる言語運用能力を身につけている人
- 4 高度情報社会の在り方や望ましい発展に関心がある人
- 5 情報処理能力やデータの収集・分析能力を身に付けようとする人
- 6 外国語運用能力の向上と多文化の理解に関心がある人

#### <入学に際し必要な基礎学力>

入学試験で選択した科目に限らず幅広く学習していることが望ましい。国語や数学、英語、地理歴史、公民、理科等を学習し、さらに広く情報社会の出来事に関心を持つようにしておくことが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

#### <教育の目標>

- 1 大学での学修に必要な基礎的な学力や学修の方法・技術を修得させ、多角的な視点から問題を探究する姿勢を身に付けさせる教育
- 2 専門教育を支える十分な社会情報学的な思考方法を醸成する教育
- 3 情報リテラシーやデータ収集・分析能力、外国語運用能力等を養成する教育
- 4 高度情報社会の特質を専門的・多角的に読み解く力や問題解決能力を養成する教育
- 5 自ら設定したテーマに沿って調査・研究活動を進め、それを論文や提案として結実させる能力を養成する教育

#### <教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養基盤科目、教養育成科目により基礎的素養を身に付ける教育を展開する。また、専門教育の基礎となるコア科目及びスキル系科目を学修させ、教養教育から専門教育へのスムーズな導入を図る。
- 2 これを基盤として、教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。



<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実習の各科目
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた講義時間外の自己学習(予習・復習)の督促

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～
-----------------------------------

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。  
上記のことを前提に、国立大学唯一の社会情報学部であることから、学士に求められる能力評価の一般的な基準を参考にしつつも、高度情報社会において有用な能力を獲得したかどうかを厳しく評価することとする。

<学修成果の目標>

- 1 社会で情報が生産・流通・加工・蓄積・活用される一連のプロセス(社会情報過程)に関する知識を有し、課題を理解できること
- 2 情報社会に生起する組織や地域社会の諸課題に関心を持ち、その解決に意欲を持つこと
- 3 科学的・批判的に思考・判断する能力を有し、自ら得た知見を分かりやすく説明・伝達する能力を備えていること
- 4 実践的な情報処理能力と課題に即したデータの収集・分析能力を有し、適切な考察を行うことができること
- 5 外国語運用能力を有し、国内外で活躍できること

## 必ずお読みください

### 医学部医学科の教育ポリシー

#### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることをふまえ、医学生として、科学的知（Science）、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面（SES）にわたって自己研鑽に励むことができる人

- 1 豊かな感受性、奉仕の精神を備え、医師としてふさわしい資質を身につけることを目指して、不断の努力を積み重ねられる人
- 2 医療、医学研究、医学教育もしくは医療行政などの分野において、社会に貢献することへの志と強い信念を持っている人
- 3 本学科の教育内容を理解するために必要な総合的基礎学力を十分に備えている人

#### <入学に際し必要な基礎学力>

特に日常的な学習が十分に行われていることが望ましいのは、国語と英語である。専門科目を学ぶために必要となるのは、数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bであり、理科では、受験科目にかかわらず、物理（物理基礎を含む）、化学（化学基礎を含む）、生物（生物基礎を含む）である。

#### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知（Science）、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面（SES）にわたって生涯自己研鑽する力が付く教育

- 1 自分をふりかえり他者を思いやる心が育ち、コミュニケーションを通して相互理解を図る態度が身に付く教育
- 2 自然科学、医学、医療、人間と社会にかかわる知を習得し、それを実践でいかす力が身に付く教育
- 3 新たな課題にも対応できる問題解決能力が身につき、リサーチマインドが育つ教育
- 4 生涯にわたって社会貢献と自己研鑽に努める意欲が育つ教育

#### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽を続けることができる者

- 1 医師にふさわしい倫理観と責任感を有し、医療チームの中で医師として適切な行動をとることができ、他者と信頼関係を築ける者
- 2 医師、医学研究者、医学教育者又は医療行政担当者となるために必要な知識を身に付

- けるとともに、新たな課題にも対応できる問題解決能力を修得した者
- 3 医学知識に裏打ちされた臨床と研究の能力を修得し、患者により良い医療を提供する能力と、医学や医療の発展に貢献する意欲を備えた者

## 必ずお読みください

### 医学部保健学科の教育ポリシー

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

#### <人材育成の目標>

- 1 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
- 2 本学科での学修を通して、学士（看護学・保健学）に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
- 3 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
- 4 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
- 5 看護師・助産師・保健師、臨床検査技師・細胞検査士、理学療法士、作業療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

#### <入学者に求める能力・資質>

- 1 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
- 2 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
- 3 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
- 4 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
- 5 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

#### <入学に際し必要な基礎学力>

- 1 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

知性と行動力を備えた人間性豊かな保健医療人材の育成を目指し、次のような教育を行います。

- 1 全人的医療の担い手としての人間性の涵養と、専攻分野で必要な基礎力の育成を図る教育
- 2 専門教育では基礎から臨床に亘る階層的知識の積み上げを図るとともに、先端の保健医療の学習にも配慮する教育
- 3 保健医療の担い手としての主体的思考・行動力と豊かな感性を持つ人材育成を図る教育
- 4 チーム医療の担い手としての意識と、そこで必要な能力の育成を図る教育
- 5 保健医療の諸課題に対応できる地域的視点と国際的視野を持つ人材育成を図る教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得し、各専攻のディプロマ・ポリシーが規定す

る学識と能力を持つ次のような者に学士の学位を授与します。

- 1 保健医療の中核を担う専門職業人となるために必要な知識と技術を備え、人間の尊厳を尊ぶ心を持つ者
- 2 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させてゆく意欲と自己開発力を持つ者
- 3 チーム医療を担う自覚を有し、関係する人々との相互理解と円滑な協働関係が築ける者
- 4 保健医療の諸課題に対し、多面的視点からの柔軟な思考、的確な判断と対応ができる者

※ 各専攻の教育ポリシーについては、55～63ページ参照。

## 必ずお読みください

### 理工学部の教育ポリシー

#### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

- 1 誰も行ったことのない新しいことに挑戦することが好きで、失敗をおそれない人
- 2 自らの能力向上を目指し、そのための労を惜しまない人
- 3 自然現象や科学技術などに興味があり、それらを通じて自然科学の原理原則を最後まで追究したい人
- 4 理工学を学ぶ上での基礎学力を有し、理学的基盤（数学、物理学、化学、生物学など）の理解を基に新理論・新技術の開発にチャレンジしたい人
- 5 理工学分野で国際的な活躍を目指す人

#### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

世界の知的基盤を担う創造性豊かな人材を育成するため、学生と教員との緊密なつながりを基本として、次のような教育を行います。

- 1 理学に根ざした俯瞰的な物の見方、考え方を身に付け、工学に根ざした実践的・独創的な課題解決能力を養う理工学教育
- 2 国際的な水準を満たし、かつ各教員の特長を活かした教育
- 3 個人の発想や知的好奇心を尊重し、未知の分野に挑戦する活力と創造性を育む教育
- 4 国際コミュニケーション能力を備え、世界を舞台に研究者・技術者として活躍できる人材を育成する教育

#### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

- 1 自然や社会の理解に関する俯瞰的・論理的な見方や考え方を修得した者
- 2 理工学に関する基礎および専門的な知識を修得した者
- 3 社会の中で専門分野の知識を活かし、未知なるものの探求、新たなものの創生や諸課題の解決に取り組める者
- 4 他者の意見を理解し、自らの意見を伝え、外国の人ともコミュニケーションができる素養をも持つ者

※ 各学科の教育ポリシーについては、64～76ページ参照。



## 1. 推薦入試を実施する学部・学科等及び募集人員

学 部	課 程	系	専 攻	募 集 人 員
教育学部	学校教育教員養成課程	文化・社会系	国 語 専 攻	6名
			社 会 専 攻	5名
		自然・情報系	数 学 専 攻	5名
			理 科 専 攻	4名
		芸術・表現系	音 楽 専 攻	2名
			美 術 専 攻	2名
		生活・健康系	保 健 体 育 専 攻	5名
		教育人間科学系	障 害 児 教 育 専 攻	4名

(注)1 入学手続き者が募集人員に満たない場合は、原則として、前期日程の募集人員に、この満たない人数を加えます。

(注)2 上記以外の専攻は実施しません。

学 部	学 科	募 集 人 員
社会情報学部	社会情報学科	28名

(注) 入学手続き者が募集人員に満たない場合は、原則として、前期日程の募集人員に、この満たない人数を加えます。

学 部	学 科 ・ 専 攻	募 集 人 員	
医学部	医 学 科	35名	
	保健学科	看 護 学 専 攻	30名
		検 査 技 術 科 学 専 攻	9名
		理 学 療 法 学 専 攻	8名
		作 業 療 法 学 専 攻	8名

(注)1 入学手続き者が募集人員に満たない場合は、原則として、前期日程の募集人員に、この満たない人数を加えます。

(注)2 医学科の募集人員35名には、地域医療枠10名程度を含みます。

なお、平成21年度緊急医師確保対策に基づく定員増の延長を認可申請中です。

申請が不認可となった場合には、推薦入試の募集人員35名には地域医療枠7名程度を含むこととなります。

詳細は平成29年11月初旬に本学ホームページで公表予定です。

学 部	学 科	募 集 人 員
理工学部	化 学 ・ 生 物 化 学 科	60名
	機 械 知 能 シ ス テ ム 理 工 学 科	33名
	環 境 創 生 理 工 学 科	28名
	電 子 情 報 理 工 学 科	35名

(注)1 アドミッション・オフィス (AO) 入試の入学手続き者が募集人員に満たない場合は、原則として、推薦入試の募集人員に、この満たない人数を加えます。

(注)2 入学手続き者が募集人員に満たない場合は、原則として、前期日程の募集人員に、この満たない人数を加えます。

(注)3 総合理工学科 (フレックス制) は実施しません。

## 2. 推薦入試の出願資格及び出願要件

次の出願資格のいずれかに該当し、かつ志望学部・学科・専攻の出願要件を満たす者とします。

〈出願資格〉

① 平成30年3月31日までに高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者 (平成29年度

中に卒業した者又は卒業見込みの者を含む。)

- ② 通常の課程による12年の学校教育を平成30年3月31日までに修了見込みの者（平成29年度中に修了した者又は修了見込みの者を含む。）
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年度中に修了又は修了見込みの者

〈出願要件〉

出身学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合は入学することを確約できる者。

## ◎ 教育学部

### (1) 国語専攻

次のいずれかに該当する者

- ① 学習成績概評がAの者
- ② 学習成績概評がB以上で、国語の評定平均値が4.3以上の者

### (2) 社会専攻

次のいずれかに該当する者

- ① 学習成績概評がAの者
- ② 学習成績概評がB以上で、地理歴史及び公民の全履修科目の評定平均値が4.3以上の者

### (3) 数学専攻

次の項目全てに該当する者

- ① 数Ⅱ、数Ⅲ、数Bを履修又は履修見込みの者
- ② 学習成績概評がB以上で、数学の評定平均値が4.3以上の者
- ※ ①について、専門教育に関する教科「理数」を履修の場合、数Ⅱ、数Ⅲ、数列、ベクトルの内容を履修又は履修見込みであることを調査書の備考欄に記入してください。

### (4) 理科専攻

次のいずれかに該当する者

- ① 学習成績概評がAの者
- ② 学習成績概評がBかつ理科の評定平均値が4.1以上の者で、物理、化学、生物、地学のうち1科目以上を履修又は履修見込みの者

### (5) 音楽専攻

次のいずれかに該当する者

- ① 学習成績概評がB以上の者
- ② 音楽の評定平均値が4.0以上の者

### (6) 美術専攻

次のいずれかに該当する者

- ① 学習成績概評がB以上で、美術又は工芸の評定平均値が4.0以上の者
- ② 学習成績概評がB以上で、美術及び工芸並びにこれらに類する科目（素描、絵画、彫刻、ビジュアルデザイン、クラフトデザインなど）について計10単位以上修得又は修得見込みで、その評定平均値が3.5以上の者

### (7) 保健体育専攻

次の項目全てに該当する者

- ① 学習成績概評がB以上の者
- ② スポーツ活動の成績がブロック大会（例：関東大会など）以上に出場の者

### (8) 障害児教育専攻

学習成績概評がB以上の者

## ◎ 社会情報学部

調査書の学習成績全体の評定平均値が4.0以上の者

## ◎ 医学部

## (1) 医学科

次の①及び②全てに該当する者

① 出身学校における調査書類、学習成績、適性評価等に優れ、かつ、調査書の学習成績概評がA段階に属し、人物も優れている者

※ ①に該当する者については、調査書に①と表示してください。

② 出身学校において、数学については、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A及び数学Bのうち2科目以上、理科については、物理、化学及び生物のうち2科目以上を履修又は履修見込みの者

上記①及び②の要件を満たし、群馬県内の地域医療に貢献したいという強い意志を持ち、群馬県からの修学資金の貸与を希望する者は地域医療枠の出願が必要です。

なお、地域医療枠で出願する者は、出願資格のほか、「群馬県緊急医師確保修学資金制度について(推薦入試)」に記載する対象者要件に該当しなければなりません。

下記出願区分のいずれで出願しても合格者の判定は同一の基準により実施します。

## ○ 一般枠

医師や医学研究者等を目指す一般的な選抜枠で、群馬県からの修学資金貸与を希望しない場合の出願区分です。

## ○ 地域医療枠

群馬県での将来の医療を担う強い意志を持ち、群馬県からの修学資金貸与を希望する場合の出願区分です。

合格判定の結果、成績が募集人員内(35名)にあると判定され、成績順に決められる修学資金貸与予定者(10名程度)よりも下位であると判定される場合は、一般枠として合格となります。

- 群馬県の修学資金貸与制度の概要は、下記の「群馬県緊急医師確保修学資金貸与制度について(推薦入試)」を参照してください。
- 地域医療枠合格者は、群馬大学医学部や群馬県等が企画する県内医療に関する特別プログラムに参加します。
- 地域医療枠合格者は、卒業後10年間は、群馬大学医学部附属病院を含む群馬県内の特定病院の中から選択し、臨床研修及び診療業務に当たります。医師としての柔軟なキャリア形成が可能です。後出のキャリアモデルを参考にしてください。

群馬県緊急医師確保修学資金貸与制度について(推薦入試)

## 1 対象者要件

「出願資格」(11頁)及び「出願要件」(13頁)に該当する者であって、次のいずれかに該当するもの(募集人員10名程度)

- (1) 群馬県に所在する高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者
- (2) 群馬県に所在する通常の課程による12年の学校教育を修了見込みの者
- (3) 上記(1)及び(2)以外の者であって、次のいずれかに該当するもの

- ① 出願時の住所が群馬県内にある者
- ② 出願時に父母、祖父母又は配偶者のうち、いずれかの者の住所が群馬県内にある者
- ③ 出願時の本籍が群馬県内にある者

## 2 提出書類

「4出願手続(5)出願書類」(19~21頁)に示す出願書類のほか、次の書類をあわせて提出すること。

なお、上記1(1)又は(2)に該当する者は除きます。

- (1)〔1(3)①に該当する者〕住民票の写し
- (2)〔1(3)②に該当する者〕父母、祖父母又は配偶者の住民票の写し及び出願者との関係がわかるもので次のいずれか一つ。
- 住民票の写し（続柄が記載されているもの）
  - 出願者の出身高等学校等が発行する証明書（任意様式・学校長の証明印があるもの）
  - 健康保険証の写し（続柄が記載されているもの）
  - 市(区)役所、町村役場が発行するもので関係がわかるもの
- (3)〔1(3)③に該当する者〕市(区)役所、町村役場が発行するもので本籍が証明できるもの

※住民票の写しは、出願日前3ヶ月以内に発行されたもので、個人番号（マイナンバー）が記載されていないものとします。

### 3 貸与期間

6年間

### 4 修学資金貸与額（予定）

月額150,000円

※総額11,082千円（初年度は入学科相当額が加算されて貸与されます。）

### 5 貸与条件

- (1) 群馬県内の地域医療に貢献したいという強い意志を持ち、卒業後、県内の特定病院において、貸与期間の3分の5に相当する期間（10年間＝従事必要期間）、卒後臨床研修及び診療業務に従事すること。
- (2) 従事必要期間（10年間）のうち、4年間以上は、群馬県保健医療計画に明記される医師不足地域の医療機関又は特に不足する診療科のうちから被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する医療機関又は診療科に勤務すること。ただし、へき地医療拠点病院又はへき地診療所に勤務する場合は3年間以上とする。
- (3) 従事必要期間（10年間）は、群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」に参加すること。

〔補足〕

- 「医師不足地域」、「特に不足する診療科」は、将来、勤務することとなる時点の保健医療計画に明記されます。
- 貸与期間中に修学資金貸与を辞退することは、原則として認めません。  
また、留年した場合は、当該留年に係る期間は貸与を受けることができません。

### 6 返還

卒業後、県内の特定病院において、従事必要期間（10年間）、卒後臨床研修及び診療業務に従事した場合は、修学資金の返還が全額免除されます。

しかし、次のような場合は、貸与期間に年10%の割合で計算した利息を加算して、貸与した修学資金を返還することが必要です。

- 貸与条件を満たさないこととなった場合（ただし、特定病院における在職期間に応じて、返還が一部免除になります。）
- 卒業の翌年までの医師国家試験に合格できなかった場合
- 卒業後、県内の特定病院で臨床研修に従事しなかった場合

## 7 貸与手続

入試合格後、群馬県による意思確認の面接を経て、群馬県との間で貸与手続（貸与申請書の提出、貸与契約書の締結等）を行います。その際、連帯保証人2名が必要です。

※詳細は別途案内します。

なお、修学資金は、二月ごとにその期間分を貸与する予定です。

### 《制度の特色》

群馬県による本制度には下記のような特色がありますので、卒後臨床研修先の選定や、その後の診療業務、大学院進学、留学、研修等について、柔軟に計画することが可能となります。

- ① 卒業後に従事する特定病院は、被貸与者が選択することができます。  
ただし、「5 貸与条件」(2) に示す医療機関又は診療科は被貸与者の意見を聴取の上、群馬県知事が指定する医療機関又は診療科になります。
- ② 群馬県地域医療支援センターが用意する「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」により、卒業後10年間のキャリア形成を支援します。キャリアパスは、地域間・病院間ローテーションにより、キャリアアップと地域医療への貢献を実践できるものです。
- ③ 卒業後、従事必要期間（10年間）は県内の特定病院での従事が必要となりますが、次のようなケースは返還義務中断期間として認められます。
  - i) 疾病・災害等やむを得ない理由により従事できない期間
  - ii) 産休・育児休業の期間
  - iii) 大学院（医学を履修する課程に限る）に在学する期間や海外留学などの医学研修期間→5年まで可
  - iv) 後期研修の一環として特定病院以外の病院に勤務する期間など→3年まで可

### 《特定病院について》

「県内の特定病院」には、群馬大学医学部附属病院のほか、次の病院が予定されています。いずれも公的な側面が強い地域の中核的な病院です。これらの病院の医師不足解消も大きな目的の一つです。

群馬県立心臓血管センター、群馬県立がんセンター、群馬県立精神医療センター、群馬県立小児医療センター、前橋赤十字病院、公益財団法人老年病研究所附属病院、独立行政法人地域医療機能推進機構群馬中央病院、群馬県済生会前橋病院、前橋協立病院、独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター、医療法人社団日高会日高病院、公立碓氷病院、独立行政法人国立病院機構渋川医療センター、公立藤岡総合病院、藤岡市国民健康保険鬼石病院、下仁田厚生病院、公立富岡総合病院、公立七日市病院、吾妻広域町村圏振興整備組合立中之条病院、原町赤十字病院、西吾妻福祉病院、独立行政法人国立病院機構沼田病院、利根中央病院、伊勢崎市民病院、社団法人伊勢崎佐波医師会病院、桐生厚生総合病院、SUBARU健康保険組合太田記念病院、館林厚生病院

以上のほか、協力型臨床研修病院、へき地診療所、二次救急輪番病院。

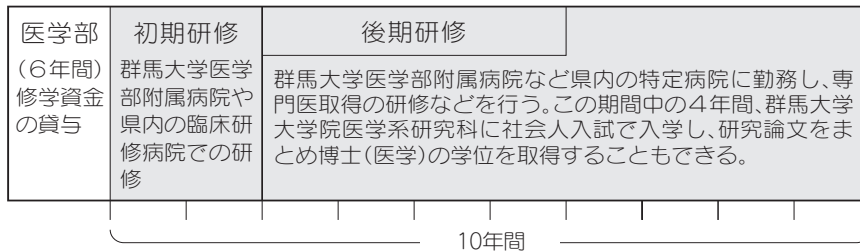
### 《修学資金貸与制度に関する問合せ先》

群馬県庁 健康福祉部医務課 医師確保対策室 電話：027-226-2540（直通）

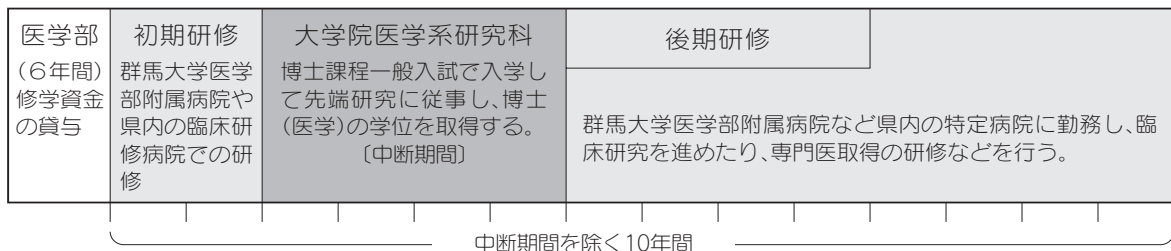


地域医療枠合格者の卒業後のキャリアモデル

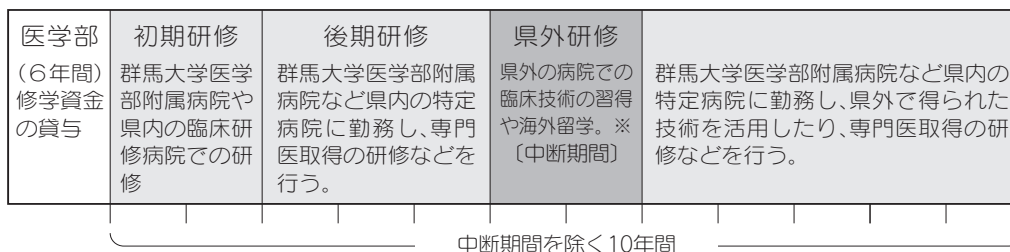
- 1) 後期研修の間に、群馬大学大学院医学系研究科の社会人入試制度を利用して、返還義務期間を中断することなく、博士（医学）の学位を取得することもできる。



- 2) 大学院医学系研究科に入学し、先端研究に従事して博士（医学）の学位を取得する。大学院在学中の期間を返還義務中断期間とする。

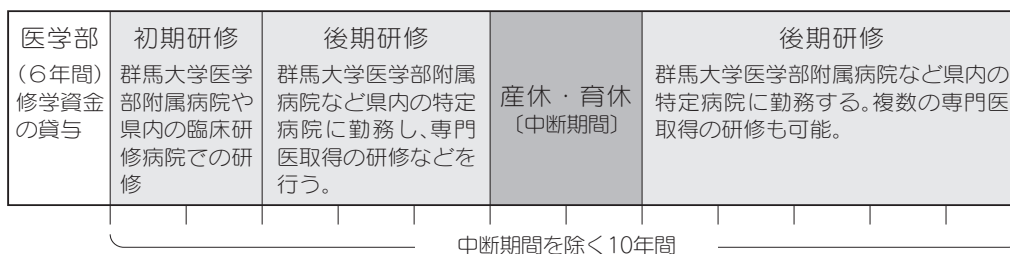


- 3) 県外での病院研修や海外留学を行い、その期間を返還義務中断期間とする。



※県外の病院での臨床技術の習得は、特定病院で実施する後期研修のプログラムの一環としての場合に限りです。

- 4) 産休・育児休業の期間を返還義務中断期間とする。



(注) 上記は、群馬県の修学資金貸与制度の特色である、返還義務中断期間を活用しながら、卒業後のキャリアアップなどを図るモデルケースです。返還義務中断期間の取扱いで御不明な点は群馬県ホームページの「群馬県緊急医師確保修学資金制度」の御案内 (<http://www.pref.gunma.jp/02/d1010069.html>) を御覧になるか、群馬県庁健康福祉部医務課医師確保対策室(027-226-2540)へお問合せください。

また、キャリア形成については、群馬県地域医療支援センター(027-220-7938)へお問い合わせください。



(2) 保 健 学 科

次の項目全てに該当する者

- ① 出身学校における学習成績及び人物に優れ、調査書の学習成績の全体の評定平均値が3.8以上の者
- ② 出身学校において、数学については、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A及び数学Bのうち2科目以上、理科については、物理、化学及び生物のうち2科目以上を履修又は履修見込みの者

◎ 理 工 学 部

出身学校における成績及び人物に優れている者

### 3. 推 薦 人 員

◎ 教 育 学 部

- (1) 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、障害児教育専攻  
特に制限をしません。
- (2) 保健体育専攻  
出身学校1校につき、1名とします。

◎ 社会情報学部

特に制限をしません。

◎ 医 学 部

- (1) 医 学 科  
出身学校1校につき、一般枠と地域医療枠を合わせて5名以内とします。
- (2) 保 健 学 科  
特に制限をしません。

◎ 理 工 学 部

特に制限をしません。

### 4. 出 願 手 続

推薦入試（大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて）に出願することができるのは、一つの大学・学部に限ります。

(1) 出願書類送付先

〒371-8799 日本郵便株式会社 前橋中央郵便局留  
群馬大学 推薦入試出願書類受付係

(2) 問い合わせ先

群馬大学学務部学生受入課入学試験係 電話：027-220-7150

(3) 出 願 方 法

出願書類は一括して本学所定の封筒に入れ、必ず書留速達で郵送してください。  
普通郵便等で郵送した場合、事故があっても本学ではその責任は負いません。

(4) 出 願 期 間

平成29年11月1日（水）から11月6日（月）必着とします。

出願書類は、平成29年11月6日（月）までに必ず届くよう、郵送期間を十分考慮のうえ、発送してください。ただし、出願期間後（11月7日（火）以降）に到着した場合でも、11月4日（土）までの（11月4日（土）を含む）発信局消印がある「書留速達」に限り受理します。なお、特別な事情がある場合については、平成29年10月31日（火）17時15分までに「(2)問い合わせ先」へ連絡してください。

## (5) 出願書類

書類	摘要
出願書類等確認票	全学部
入学願書	様式1 必ず志願者本人が、黒のボールペン又は万年筆で楷書で正確に記入し、該当事項を○で囲んでください。
推薦書	様式2 各出身学校長が作成し、厳封したもの。
高校在学中の活動歴を証明する書類 (全学部共通)	高校在学中の「活動歴」がある場合、推薦書の「その他の特記事項」欄に記入し、その内容を確認できる資料を提出してください。ただし、提出できる点数は、原則3点以内（特に様式は指定せず、コピーでよいが、全体でA4用紙3枚以内）とします。 (活動歴の例) 英語の資格・検定試験の成績又はスコア、スーパーグローバルハイスクール又はスーパーサイエンスハイスクール活動への参加や発表、職業分野の資格・検定試験、ジュニアマイスターの受賞、コンクール・コンテスト等各種大会への参加や受賞、留学経験、社会貢献活動への参加や受賞、論文・発表資料など。
照合票・受験票	教育学部 様式6・7 社会情報学部・医学部・理工学部 様式8・9 必要事項を記入し、写真(上半身・正面・無帽 タテ4cm×ヨコ3cm 1枚：出願前3か月以内に撮影したもの)を所定の欄に貼り付けてください。
検定料	17,000円  次のいずれかの方法により支払ってください。 <b>1. 金融機関(ゆうちょ銀行を除く)からの支払い</b> (1) 本募集要項に添付してある検定料振込用紙(様式4)により、上記金額を必ず金融機関窓口から振り込み、「振込金受付証明書(大学提出用)」を受領してください。なお、振込手数料は振込人の負担となりますので、留意してください。 (2) 「振込金受付証明書(大学提出用)」を貼付台紙(様式5)の所定の欄に貼り付けてください。 (3) 「振込金受取書」は本人の控えとして、大切に保管しておいてください。 (4) 振込取扱期間 <u>平成29年10月13日(金)～11月6日(月)15時まで</u> (5) 金融機関出納印のないもの、金額を訂正したもの及び鉛筆書きのものは無効になります。また、ATM(現金自動預払機)、携帯電話、パソコン等からは、振り込まないでください。 <b>2. コンビニエンスストアでの支払い(パソコンやスマートフォン等のある環境で御利用ください。)</b> (1) 77ページ「コンビニエンスストア・クレジットカードでの検定料支払方法」を参照の上、支払ってください。なお、支払手数料は支払人の負担となりますので、留意してください。 (2) 支払後、レジにて受け取った「入学検定料・選考料 取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、貼付台紙(様式5)の所定の欄に貼り付けてください。 (3) 支払期間 <u>平成29年10月13日(金)～11月6日(月)15時まで</u> (「Webサイトでの申込み」は、支払期間終了30分前まで) <b>3. クレジットカードでの支払い(パソコンやスマートフォン等、プリンタのある環境で御利用ください。)</b> (1) 77ページ「コンビニエンスストア・クレジットカードでの検定料支払方法」を参照の上、支払ってください。なお、支払手数料は支払人の負担となりますので、留意してください。

書 類	摘 要
検 定 料	<p>(2) 支払後、「入学検定料・選考料 取扱明細書」を印刷し、「収納証明書」部分を切り取り、貼付台紙(様式5)の所定の欄に貼り付けてください。</p> <p>(3) 支払期間 <u>平成29年10月13日(金)～11月6日(月)15時まで</u></p> <p>※ 既納の検定料は原則として返還しません。</p> <p>ただし、検定料を振り込み後、本学に出願しなかった場合又は書類の不備等により受理されなかった場合、あるいは重複振り込み等所定の金額より多く振り込んだ場合は、下記手続により返還します。</p> <p>返還に当たっては便せん等を用い、次のア～オを明記した「検定料返還申出書」を作成して群馬大学財務部経理課へ郵送してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">群馬大学推薦入試検定料返還申出書</p> <p>ア. 返還申出の理由  イ. 氏名(フリガナ)  ウ. 郵便番号、現住所  エ. 連絡電話番号  オ. 志望学部</p> </div> <p>返還申出書送付先  〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2  群馬大学財務部経理課収入係 電話：027-220-7062</p> <p>返還手続を行う際に、「振込金受取書」又は「入学検定料・選考料 取扱明細書」が必要となります。</p> <p>返還される金額は、振込手数料を差し引いた金額となります。</p> <p>※ 東日本大震災及び風水害等の災害に罹災した志願者については、特別措置として検定料の全額を免除します。</p> <p>《検定料の免除の対象者》</p> <p>1. 東日本大震災に係る特別措置</p> <p>(1) 東日本大震災における災害救助法が適用されている地域で罹災した志願者で、以下のいずれかに該当する者</p> <p>① 学資負担者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊又は流失した者</p> <p>② 学資負担者が死亡又は行方不明の者</p> <p>(2) 学資負担者の居住地が、福島第一原子力発電所で発生した事故により、警戒区域、計画的避難区域、帰還困難区域、居住制限区域及び避難指示解除準備区域に指定された者</p> <p>2. 風水害等の災害に係る特別措置</p> <p>(1) 出願期限の日から前1年以内に発生した風水害等の災害において、災害救助法が適用されている地域で罹災した志願者で、以下のいずれかに該当する者</p> <p>① 学資負担者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊又は流失した者</p> <p>② 学資負担者が死亡又は行方不明の者</p> <p>(2) 本学が指定する風水害等の災害における「災害救助法適用地域」については、本学ホームページ(入試案内&gt;関連情報)を御確認ください。</p> <p>上記に該当される方は、当該「検定料免除申請書」を本学ホームページ(入試案内&gt;関連情報)からダウンロードし、関係書類を添え出願書類に同封して申請してください。書類の提出に関する問合せ等は、平日8時30分から17時15分間に学務部学生受入課【電話027-220-7149】まで連絡してください。</p> <p>URL：(<a href="http://www.gunma-u.ac.jp">http://www.gunma-u.ac.jp</a>)</p>
適性資質調査書 (医学部医学科志願者のみ)	様式3 各出身学校の指導教諭等が作成し、厳封したもの。
宛 名 票	様式10 ※印欄以外は全部記入してください。

書 類	摘 要
志願理由書 (教育学部、社会情報学部 及び医学部医学科「地域医 療枠」志願者のみ)	様式11 志願者本人が自筆したもの。(教育学部及び社会情報学部志願者) 様式12 志願者本人が自筆したもの。 (医学部医学科「地域医療枠」で出願する志願者のみ)
調 査 書	所定の様式により、出身学校長が作成し、厳封したもの。 ※1 出身学校の事情(廃校及び被災等を含む)により、出身学校長の調査書が 得られない場合は、卒業証明書、成績通知表(成績通信簿)及びその他入学 志願者が提出できる書類を、調査書に代えて提出してください。 ※2 本人が被災等により※1の書類も整えられない場合は、出身学校を所管す る教育委員会、知事又は出身学校長が作成したこの内容を証明できる書類を 提出してください。
実技試験に関する 届出用紙 (教育学部音楽専攻志願者のみ)	様式13 志願者本人が自筆したもの。
作品制作証明書 及び 美術活動調査書 (教育学部美術専攻志願者のみ)	様式14、15 以下のとおり作成し、まとめて角形3号封筒に入れ、厳封したもの。  (様式14) 作品制作証明書は、志願者本人が出身学校在籍中に制作した作品の写 真(1作品につき写真1枚)を作品写真貼付欄に貼り付け、必要事項を記入する。 ・5点以内とする。 ・作品の分野は問わない。 ・裏面の特記事項等は、記載責任者(※)が記入する。 (様式15) 美術活動調査書は、作品制作証明書を基に出身学校長が作成する。  ※ 記載責任者になれる者は、志願者が在籍する出身学校で美術又は工芸の授業 を担当している者。
入選・入賞を確認 できる資料等 (教育学部美術専攻志願者のみ)	特に様式は指定せず、コピーでもよいが、「作品制作証明書」の内容を確認でき るもの。
スポーツ活動調査書 (教育学部保健体育専攻志願者のみ)	様式16 各出身学校長が作成し、厳封したもの。
競技成績を確認 できる資料等 (教育学部保健体育専攻志願者のみ)	特に様式は指定せず、コピーでもよいが、「スポーツ活動調査書」の内容を確認 できるもの。
「群馬県緊急医師確保修 学資金貸与制度について (推薦入試)」に示す書類 (医学部医学科「地域医療枠」 志願者のうち該当者)	医学部医学科「地域医療枠」で出願する志願者のうち、「群馬県緊急医師確保修 学資金貸与制度について(推薦入試)」(13~15頁)の「1 対象者要件」(3)に 該当する者は、同頁「2 提出書類」に示す書類を提出してください。
受験票等送付用封筒	送付先明記の上、362円分の切手を貼り付けてください。

- (注) 1. 出願書類に虚偽の記載が発見された場合は、入学許可を取り消すことがあります。  
2. 受理された出願書類は、いかなる理由があっても返還しません。  
3. 受験に関する質問等は、学生受入課入学試験係へ問合せください。  
4. 受験票は、平成29年11月13日(月)までに到着するように送付しますが、それまでに到着しない場  
合は学生受入課入学試験係へ問合せください。

## 5. 選 抜 方 法

出身学校長（高等学校長等）から推薦された者に対して、選考を行い合格者を決定します。

### ◎ 教 育 学 部

選考は、面接・小論文・実技試験及び出願書類（調査書、推薦書、志願理由書（志願者本人が自筆したもの））を総合して判定します。

試験等

○は課す ×は課さない

専 攻	面 接	小論文	実技試験	備 考
国 語 専 攻	○ 集団面接（4～5名）／約25分／面接員6名／基本的な国語の知識を問うことを含む	○	×	
社 会 専 攻	○ 集団面接（約5名）／約30分／面接員約5名	○	×	
数 学 専 攻	○ 集団面接（5～6名）／20～25分／面接員5名／基本的な数学の知識を問うことを含む	○ 主に数学的思考力を問う	×	
理 科 専 攻	○ 集団面接（4～5名）／30～40分／面接員5名／理科の専門的知識を問うこともある	○	×	
音 楽 専 攻	○ 集団面接（4～5名）／15～20分／面接員6名／基本的な音楽の知識を問うことを含む	×	○ 33ページ「13.別記」参照	「様式13 実技試験に関する届出用紙」を願書と一緒に提出してください。
美 術 専 攻	○ 集団面接（4名）／約25～30分／面接員6名	×	○ 33ページ「13.別記」参照	「様式14 作品制作証明書」に作品写真を貼り付け、必要事項を記入し、「様式15 美術活動調査書」とともに願書と一緒に提出してください。作品制作証明書、美術活動調査書、入選・入賞を確認できる資料等（コピーでも可）を含めて判定します。
保 健 体 育 専 攻	○ 集団面接及び個人面接 集団面接：5名／30分程度／面接員複数／基本的な保健体育の知識を問うことを含む 個人面接：15分程度／面接員複数／主に競技歴の確認	○	×	スポーツ活動調査書、競技成績を確認できる資料等（コピーでも可）も含めて判定します。
障 害 児 教 育 専 攻	○ 集団面接（3～4名）／約30分／面接員6名	○	×	

(注) 面接時間は状況に応じて変わる場合があります。

試験等日時

時 間		月 日									
		8:20	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	
11月18日(土)	国語専攻		8:40		10:30		12:30	13:30			
	社会専攻	受 諸 注 付 意									
	数学専攻										
	理科専攻										
	音楽専攻										
	美術専攻										
	保健体育専攻										
	障害児教育専攻										

(注) 1 受験者の入構開始時刻は8時です。諸注意等があるので試験開始30分前までには、定められた試験室に入室してください。  
2 遅刻した者は、志望する専攻の試験開始後30分までは受験を認めず。ただし、試験時間は延長しません。



試験場

試験場	所在地	試験場までの交通案内
群馬大学 教育学部	前橋市荒牧町4-2	36ページ「試験場までの交通案内」参照

(注) 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。

◎ 社会情報学部

選考は、面接・小論文及び出願書類（調査書、推薦書、志願理由書（志願者本人が自筆したもの））を総合して判定します。

試験等

○は課す ×は課さない

面接	小論文	備考
○ 個人面接／15分／ 面接員複数	○	

(注) 面接時間は状況に応じて変わる場合があります。

試験等日時

月 日	8:20		9:00	11:00	12:30	
		8:40			12:20	
11月18日(土)	受付	諸注意	小論文		諸注意	面接 面接の終了時刻は、遅くなる場合があります。

- (注) 1 受験者の入構開始時刻は8時です。諸注意等があるので試験開始30分前までには、定められた試験室に入室してください。  
2 遅刻した者は、試験開始後30分までは受験を認めず。ただし、試験時間は延長しません。

試験場

試験場	所在地	試験場までの交通案内
群馬大学 社会情報学部	前橋市荒牧町4-2	36ページ「試験場までの交通案内」参照

(注) 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。

◎ 医学部

(1) 医学科

選考は、面接・小論文及び出願書類（調査書、推薦書、適性資質調査書、志願理由書（地域医療枠で出願する者のみ））を総合して判定します。

下記出願区分のいずれで出願しても合格者の判定は同一の基準により実施します。

なお、地域医療枠で出願した場合、合格判定の結果、成績が募集人員内（35名）にあると判定され、成績順に決められる地域医療枠合格者（10名程度）よりも下位である場合は、一般枠として合格となります。

【出願区分】

P 出願区分	
コード	区 分
1	一 般 枠
2	地 域 医 療 枠

試験等

○は課す ×は課さない

面接	小論文	備考
○ 集団面接 / 40分 / 面接員複数	○	

(注) 面接時間は状況に応じて変わる場合があります。

試験等日時

月 日	9:30		11:30		13:00		14:30		15:30		17:00	
				12:40					15:15			
11月18日(土)			受付	諸注意	小論文				諸注意	小論文		
11月19日(日)	面接 面接の詳細については11月18日(土)に通知します。											

- (注) 1 諸注意等があるので試験開始30分前までには、定められた試験室に入室してください。  
 2 遅刻した者は、試験開始後30分(面接は集合時刻の30分後)までは受験を認めず。ただし、試験時間は延長しません。  
 3 面接試験時に追加の資料提出は認めません。

試験場

試験場	所在地	試験場までの交通案内
群馬大学 医学部	前橋市昭和町3-39-22	37ページ「試験場までの交通案内」参照

(注) 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。

(2) 保健学科

選考は、面接、小論文Ⅰ(英語による出題)・小論文Ⅱ(文系の出題)・小論文Ⅲ(理系の出題)及び出願書類(調査書、推薦書)を総合して判定します。

試験等

○は課す ×は課さない

面接	小論文	備考
○ 集団面接 / 20分 / 面接員複数	○	

(注) 面接時間は状況に応じて変わる場合があります。

試験等日時

月 日	8:40		9:30		10:00		12:00		13:30		14:30	
			9:40					13:10				
11月17日(金)		受付	諸注意	小論文(Ⅰ・Ⅱ)				諸注意	小論文(Ⅲ)			
11月18日(土)	面接 面接の詳細については11月17日(金)に通知します。											

- (注) 1 諸注意等があるので試験開始30分前までには、定められた試験室に入室してください。  
 2 遅刻した者は、試験開始後30分(面接は集合時刻の30分後)までは受験を認めず。ただし、試験時間は延長しません。

試験場

試験場	所在地	試験場までの交通案内
群馬大学 医学部	前橋市昭和町 3-39-22	37ページ「試験場までの交通案内」参照

(注) 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。

◎ 理工学部

○化学・生物化学科

選考は、出願書類（調査書、推薦書\*）、面接、小論文を総合して判定します。

試験等

○は課す ×は課さない

学 科	面 接	小論文	備 考
化学・生物化学科	○ 個人面接／10分程度 ／面接員複数／理工 学教育を受けるた めの基礎能力に関 する口頭試問を 含む	○ 理工学教育を受けるた めの基礎能力を問 う 【出題範囲】 数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、 数学A、数学B 理科：化学基礎、化学 【点数配分（比率）】 概ね数学1：理科2	面接の結果が著しく不 良の場合は、出願書類 と小論文の結果にかか わらず不合格となるこ とがあります。

(注) 面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また、面接時間の長さは可否には影響しません。

試験等日時

月 日	8:00		9:00		12:30	
	8:30		11:00		12:45	
11月22日(水)	受 付	諸 注 意	小 論 文		諸 注 意	面 接 面接の詳細については、 受験票送付時に通知します。

- (注) 1 受験者の入構開始時刻は8時です。諸注意等があるので試験開始30分前までには、定められた試験室に入室してください。  
2 遅刻した者は、試験開始後30分までは受験を認めず。ただし、試験時間は延長しません。

○機械知能システム理工学科、環境創生理工学科、電子情報理工学科

選考は、出願書類（調査書、推薦書\*）、面接を総合して判定します。

試験等

○は課す ×は課さない

学 科	面 接	小論文	備 考
機械知能システム理工学科	○ 個人面接／15～20分/ 面接員複数／理工学教育 を受けるための基礎能力 に関する口頭試問を含む	×	面接の結果が著しく不 良の場合は、出願書類 にかかわらず不合格と なることがあります。
環境創生理工学科	○ 個人面接／約20分／面接 員複数／理工学教育を受 けるための基礎能力に関 する口頭試問を含む	×	
電子情報理工学科	○ 個人面接／約10分／面接 員複数／理工学教育を受 けるための基礎能力に関 する口頭試問を含む	×	

(注) 面接時間は状況に応じて変わる場合があります。また、面接時間の長さは可否には影響しません。

## 試験等日時

月 日	時 間	8:00	9:00
		8:30	
11月22日(水)	受付	諸注意	面接 面接の詳細については、受験票送付時に通知します。

- (注) 1 受験者の入構開始時刻は8時です。諸注意等があるので試験開始30分前までには、定められた試験室に入室してください。  
2 遅刻した者は、試験開始後30分までは受験を認めず。ただし、試験時間は延長しません。

\* 活動歴として英語の外部検定試験の成績を提出する場合は、GTEC CBT、GTEC for STUDENTS(検定日に受験したものに限り)、TOEFL PBT、TOEFL iBT、TOEIC Listening & Reading Test、実用英語技能検定試験(英検)、IELTS、TEAPのいずれかの下記書類を提出してください。

GTEC CBT	スコアレポート
GTEC for STUDENTS (検定日に受験したものに限り)	スコアレポート(「OFFICIAL SCORE」の記載がされているもの)
TOEFL PBT, TOEFL iBT	本人宛てに送付されたスコア(Examinee Score Report)
TOEIC Listening & Reading Test	Official Score Certificate
実用英語技能検定試験(英検)	個人成績表(一次および二次試験、得点の記載があるもの)
IELTS	本人宛てに送付されたスコア(Test Report Form)
TEAP	本人宛てに送付された成績表

## 試験場

試験場	所在地	試験場までの交通案内
群馬大学 理工学部	桐生市天神町1-5-1	38ページ「試験場までの交通案内」参照

(注) 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。

## 6. 障害等のある入学志願者との事前相談について

本学では障害等のある学生への修学支援を行っております。

障害等があって、受験上及び修学上の配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、あらかじめ本学と相談してください。

## (1) 相談の時期

平成29年10月2日(月)までとしますが、なるべく早い時期に相談してください。

## (2) 相談の方法

本学所定の相談書(本学ホームページ参照 <http://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm001/g2117>)に医師の診断書等必要書類を添付して提出してください。

必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者との面談等を行います。

## (3) 相談書送付先

〒371-8510 前橋市荒牧町4-2 電話：027-220-7150

群馬大学学務部学生受入課入学試験係

## 7. 合格者の発表等

- (1) 平成29年12月5日(火)付けで、合格者本人へは合格通知書を、推薦を行った出身学校長へは選考結果通知書(合否一覧)を郵送します。併せて、合格者の受験番号を、本学ホームページ(入試案内)に同日の10時以降から入学手続日まで掲載します。

群馬大学ホームページ：<http://www.gunma-u.ac.jp/>

大学構内での掲示等はいりません。

なお、合否についての電話による問合せには、応じません。

- (2) 推薦入試で合格した者は、他の国公立大学を受験しても、その大学の合格者となりません。
- ただし、特別な事情があり、推薦を行った出身学校長(高等学校長等)から平成30年2月14日(水)までに、「推薦入試辞退願」を本学学長に提出し、その許可が得られた場合はこの限りではありません。

## 8. 受験心得

- (1) 「推薦入試受験票」を必ず持参し、試験場に入構の際、提示してください。なお、合格後、入学手続の際にも必要となりますので大切に保管してください。
- (2) 試験室では、「推薦入試受験票」記載の受験番号と同じ番号の席に着いてください。
- (3) 試験中は、監督者の指示に従ってください。
- (4) 不正行為を行った者は、失格とします。
- (5) 試験時間中に日常的な生活騒音等(監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打ち合わせなど、航空機・救急車・自動車・風雨・空調の音など、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、携帯電話や時計等の短時間の鳴動、周囲の建物のチャイム音など)が発生した場合でも救済措置は行いません。
- (6) その他の諸注意は、受験票裏面の「受験心得」を確認してください。

## 9. 入学手続等

「合格通知書」とともに同封する「入学手続案内」を参照し、次のとおり入学手続を行ってください。

- (1) 入学手続期間  
平成29年12月6日(水)から12月12日(火)までに郵送必着
- (2) 入学手続に必要なもの
- ① 入学料 282,000円  
(注) ア. 入学時に入学料の改定が行われた場合は、改定金額を適用します。  
イ. 入学料の納入方法等は、別途連絡します。  
ウ. 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。
  - ② 本学の受験票
  - ③ 入学手続案内で指示するもの
- (3) 入学後に必要な納付金
- ① 授業料 前期分 267,900円 年額 535,800円  
(注) ア. 入学時および在学中改定が行われた場合は、改定金額を適用します。  
イ. 授業料の納入方法等は、別途連絡します。  
ウ. 授業料の納入については、希望により入学料の納入の際に、前期分又は前期分・後期分を合わせて納入することができます。



工. 授業料を納入した入学手続完了者が、平成30年3月31日（土）までに入学を辞退した場合は、納入した者の申し出により、所定の手続の上、納入した授業料相当額を返還します。

- ② 入学料、授業料の他に、各学部等で次の諸経費があります（納入日等は後日指示されます。なお、金額は予定であり、入学時及び在学中に改定が行われる場合があります）。

教育学部… 45,660円〔内訳：教育学部同窓会学部後援部会費 35,000円／同窓会入会金 2,000円／学生教育研究災害傷害保険料 3,300円／学研災付帯賠償責任保険料 1,360円／荒牧クラブ・サークル協議会費 4,000円〕  
※その他テキスト代として、年間25,000円程度必要になります。

社会情報学部… 48,660円〔内訳：後援会費 20,000円／同窓会費 20,000円／学生教育研究災害傷害保険料 3,300円／学研災付帯賠償責任保険料 1,360円／荒牧クラブ・サークル協議会費 4,000円〕 ※その他テキスト代として、年間20,000円程度必要になります。

医学部医学科…303,300円〔内訳：後援会費 100,000円（共用試験等受験料を含む）／刀城クラブ・同窓会終身会費 170,000円／学生教育研究災害傷害保険料 4,800円／学研災付帯賠償責任保険料 3,000円／医療費補助会費 12,000円／荒牧クラブ・サークル協議会費 4,000円／学友会費 9,500円〕 ※その他テキスト代として、年間150,000円程度必要になります。

医学部保健学科… 93,370円〔内訳：後援会費 40,000円／同窓会終身会費 40,000円／学生教育研究災害傷害保険料 3,370円／学研災付帯賠償責任保険料 2,000円／荒牧クラブ・サークル協議会費 4,000円／学友会費 4,000円〕  
※その他テキスト代として、年間70,000円程度必要になります。

※ 医学部学生は患者さん及び本人の感染防止のため、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎・結核等の予防接種・感染症検査を受ける必要があります。なお、検査・ワクチン接種にかかる費用は自費となります。

理工学部… 68,560円〔内訳：後援会及び工業会費 50,000円／学生教育研究災害傷害保険料 3,300円／学研災付帯賠償責任保険料 1,360円／荒牧クラブ・サークル協議会費 4,000円／学友会費9,900円〕 ※その他テキスト代として、年間44,000円程度必要になります。

#### (4) 入学料免除・徴収猶予及び授業料免除・徴収猶予

① 特別な事情により学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の全額若しくは半額を免除する制度があります。また、所定の納期までに入学料又は授業料の納入が困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の徴収を一定期間猶予することがあります。

② 東日本大震災で罹災し学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料を免除する制度があります。

③ 入試結果や学業成績などが特に優秀な学生（卓越した学生）に対して、各学部等からの推薦に基づき、授業料を免除する制度があります。

申請を希望する者は、群馬大学ホームページ (<http://www.gunma-u.ac.jp/>) の「入試案内」を御覧ください。

問合せ先 群馬大学学務部学生支援課学生生活係 電話：027-220-7141

#### (5) 奨学金

経済的理由により修学に困難がある、学業・人物ともに優れた学生に対し、修学を援助するために日本学生支援機構等による奨学金の貸与・給付制度があります。

希望する者は、群馬大学ホームページ (<http://www.gunma-u.ac.jp/>) の「入試案内」を御覧ください。

問合せ先 群馬大学学務部学生支援課学生生活係 電話：027-220-7142



## 10. 一般入試等への出願について

本入試において不合格となった者は、本学の他の入試又は他大学の入試に出願することができます。

大学入試センター試験を受験した者で国立大学の一般入試に出願しようとする者は、各大学の所定の方法により、「前期日程」から一つ、「後期日程」から一つの、合計二つの大学・学部に出願できます。（公立大学については、協会ホームページ（<http://www.kodaikyo.org/>）参照）

なお、本学の他の入試へ再度出願する場合でも、一般志願者と全く同様の出願手続（検定料は17,000円、理工学部総合理工学科（フレックス制）は10,000円）が必要です。

## 11. 入学準備

本学では、入学手続を行った者に対し、基礎学力維持のため、平成30年1月実施の大学入試センター試験において、入学学部が一般入試で課している教科・科目を自主的に受験しておくことを推奨します。なお、自己採点結果、成績通知書の提出の有無については、各学部により異なります。

また、各学部では更に次のとおり、課題等を用意しています。

### ◎ 教育学部

大学入試センター試験を自主的に受験しておくことを強くお勧めします。

その際は、教育学部が一般入試前期日程試験で課している大学入試センター試験教科・科目（下表のとおり）に準じて受験し、「自己採点結果」を下記宛先へ平成30年2月2日（金）までに送付してください。

また、大学入試センター試験の出願時に成績開示を希望した場合は、大学入試センターから送付される「成績通知書」（コピー可）も入学後に提出してください。

なお、この成績は推薦入試の可否には関係ありません。

#### ○ 大学入試センター試験「自己採点結果」及び「成績通知書」送付先

〒371-8510 前橋市荒牧町4-2 群馬大学教育学部教務係 入試担当宛

\* 封筒には「大学入試センター試験自己採点結果在中」又は「大学入試センター試験成績通知書在中」と朱書きしてください。

大学入試センター試験教科・科目  
国語、社会、保健体育、障害児教育専攻

国	国【必須】	
地歴	世A、世B、日A、日B 地理A、地理B	} から2
公民	現社、倫、政経、倫・政経	
数	数Ⅰ、数Ⅰ・数A 数Ⅱ、数Ⅱ・数B	} から1
理	ア 物基、化基、生基、地基 から2 イ 物、化、生、地学 から1	
外	英、独、仏、中、韓 から1	} ア又はイ
	[5教科6科目又は5教科7科目 若しくは6教科6科目又は6教科7科目]	

数学専攻

国	国【必須】	
地歴	世A、世B、日A、日B 地理A、地理B	} から1
公民	現社、倫、政経、倫・政経	
数	数Ⅰ、数Ⅱ・数A から1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B から1	
理	物、化、生、地学 から1	
外	英、独、仏、中、韓 から1	
[5教科6科目]		

理科専攻

国	国【必須】	
地歴	世A、世B、日A、日B 地理A、地理B	} から1
公民	現社、倫、政経、倫・政経	
数	数Ⅰ、数Ⅰ・数A から1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B から1	
理	ア 物基、化基、生基、地基 から2 物、化、生、地学 から1	} ア又はイ
外	イ 物、化、生、地学 から2 英、独、仏、中、韓 から1	
[5教科7科目又は5教科8科目]		

音楽、美術専攻

国	国【必須】	
地歴	世A、世B、日A、日B 地理A、地理B	} から1
公民	現社、倫、政経、倫・政経	
数	数Ⅰ、数Ⅱ・数A 数Ⅱ、数Ⅱ・数B	} から1
理	ア 物基、化基、生基、地基 から2 イ 物、化、生、地学 から1	
外	英、独、仏、中、韓 から1	
[5教科5科目又は5教科6科目]		

また、これとは別に下記のとおり、専攻別に課題等を用意しています。

○ 専攻別課題

国語専攻：国語に関する新書数冊を読み、自ら論点を設定した小論文の提出を求めます。

社会専攻：約10冊の推薦図書の中から3冊を選び、レポートの提出を求めます。

数学専攻：教科書以外の一般向け数学書を何冊か読むことを望みます。

理科専攻：約10冊の推薦図書の中から1冊以上を選び、読書感想文の提出を求めます。

音楽専攻：楽典、聴音、新曲視唱について各自で課題の実習を行っておくことを望みます。

美術専攻：美術館及び展覧会の見学並びに美術・美術教育に関する書籍を読むことを求めます。また、F8以上のスケッチブックに、デッサン・水彩画等を描き、その提出を求めます。

保健体育：保健体育・スポーツに関する図書を2冊選び、精読すること。図書2冊のレポート（形式は自由です）を入学後に提出してもらいます。加えて、自己の運動能力の保持増進と運動指導方法に関する知見を高めておくことを望みます。

障害児：教育、福祉、医療等に関わる課題を課し、取り組んだ成果を提出して教育専攻 してもらいます。

◎ 社会情報学部

入学前までに、大学入試センター試験の英語と数学の過去問題を解くこと及び社会情報学関連の図書を1冊読み、その要約と感想を書くことを課題とします。(詳細は合格者に別途お知らせします。)

◎ 医学部医学科

大学入試センター試験を自主的に受験しておくことを強くお勧めします。

その際は、医学部医学科が一般入試受験者に課す大学入試センター試験教科・科目(下表のとおり)に準じて受験し、「自己採点結果」を下記宛先へ平成30年2月2日(金)までに送付してください。

また、大学入試センター試験の出願時に成績開示を希望した場合は、大学入試センターから送付される「成績通知書」(コピー可)も入学後に提出してください。

なお、この成績は推薦入試の可否には関係ありません。

また、これとは別に、入学前に読んでおくことが望ましい推薦図書のリストを送付しますので、学習の参考にしてください。

○ 大学入試センター試験「自己採点結果」及び「成績通知書」送付先

〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22 群馬大学昭和地区事務部学務課入学試験係宛

\* 封筒には「大学入試センター試験自己採点結果在中」又は「大学入試センター試験成績通知書在中」と朱書きしてください。

国	国【必須】	} から1
地歴	世A、世B、日A、日B 地理A、地理B	
公民	現社、倫、政経、倫・政経	
数	数Ⅰ・数A【必須】 数Ⅱ・数B【必須】	
理外	物、化、生 から2 英、独、仏 から1	
〔5教科7科目〕		

◎ 医学部保健学科

理科(物理、化学、生物)の未履修科目の学習、実用英語技能検定、TOEIC Listening & Reading Test、TOEFLの受験、入学前のボランティア活動を推奨します。また、入学前に読んでおくことが望ましい推薦図書のリストを送付しますので、学習の参考にしてください。

◎ 理工学部

基礎学力の向上及びその確認のために、入学手続を行った者に対して、平成30年1月実施の大学入試センター試験の受験を推奨しています。

大学入試センター試験を受験した者は、数学・理科・外国語の「自己採点結果」を下記宛先へ平成30年1月31日(水)までに提出してください。(大学入試センター試験の出願時に、成績開示を希望した場合は、大学入試センターから送付される「成績通知書」(コピーでも可)も、入学後に提出してください。)

入学後、この成績を参考に「グローバルフロンティアリーダー(GFL)育成プログラム」(次頁参照)を希望する学生の選抜や入学後の入門科目の受講免除の判定にも用います。

なお、この成績は推薦入試の可否には関係ありません。

これとは別に、各学科では独自の課題等を用意しています。詳細は合格者に別途お知らせします。

- 大学入試センター試験「自己採点結果」及び「成績通知書」送付先  
〒376-8515 桐生市天神町1-5-1 群馬大学理工学部学務係宛  
\* 封筒には「大学入試センター試験自己採点結果在中」又は「大学入試センター試験成績通知書在中」と朱書きしてください。

### グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラム

群馬大学では、本学の学生が「自国及び他国の文化・歴史・伝統を理解し、外国語によるコミュニケーション能力を持ち、国内外において主体的に活動できる人」となるよう、グローバルフロンティアリーダーの育成に力を入れています。その一環として、グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラムを設置し、教育学部と社会情報学部が連携した「教育・社情グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース」、及び医学部と理工学部が連携した「医理工グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース」の2コースにより、日本語能力・国際理解を含む幅広い教養・外国語コミュニケーション能力の修得を中心とした教育を行うとともに、海外留学の経験を通して広い視野を持つ学生を育てます。

なお、「医理工グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース」は、文部科学省の委託事業「理数学生応援プロジェクト」として平成24年度まで実施していた「工学系フロンティアリーダーコース（FLC）」を発展させたものとなります。

- (1) 教育学部  
学校教育の担い手として、国際的な視点から日本の教育を捉え、広い視野を持って活躍する人材の養成を目的としています。各学年8名程度を選抜します。
- (2) 社会情報学部  
社会情報学部の学際性を活かし、世界に学び、それを地域に展開する能力だけでなく、地域の中に学び、それをグローバルに展開する能力を持つ人材の養成を目的とした「グローバル教育」を行います。各学年10名程度を選抜します。
- (3) 医学部医学科  
医師、医学研究者又は医療行政担当者として、国際的視野を持ち、広く国際社会に貢献し得る人材の養成を目的としています。各学年4名程度を選抜します。
- (4) 医学部保健学科  
保健医療の担い手として、グローバル化した保健医療の諸課題に対応できる国際的視野を持つ人材の養成を目的としています。各学年4名程度を選抜します。
- (5) 理工学部  
理工学分野において、新しい領域を開拓する創造的プロジェクトのリーダーとして、諸外国の技術者・研究者と専門分野に関して意思疎通を図りながら、協力して活躍できる能力を身に付けた人材の養成を目的としています。各学年16名程度を選抜します。

## 12. 入学願書等の記入上の注意

- (1) 黒のボールペン又は万年筆を使用してください。
- (2) 必要事項は正確に楷書で記入し、該当事項はもれなく○で囲んでください。  
なお、※印欄は記入しないでください。

(3) 学部・系・学科等コード一覧

O 試験	
コード	区 分
2	一 般 推 薦

P 出願区分	
コード	区 分
1	一 般 枠
2	地 域 医 療 枠

(注) 医学部医学科志願者のみ該当するコードを○で囲んでください。

B 学部		C 系・学科		D 専攻	
コード	区 分	コード	区 分	コード	区 分
1	教 育 学 部	00	文 化 ・ 社 会 系	01	国 語 専 攻
		10	自 然 ・ 情 報 系	02	社 会 専 攻
				11	数 学 専 攻
		12	理 科 専 攻		
		21	音 楽 専 攻		
22	美 術 専 攻				
2	社 会 情 報 学 部	20	芸 術 ・ 表 現 系	21	音 楽 専 攻
		30	生 活 ・ 健 康 系	22	美 術 専 攻
		40	教 育 人 間 科 学 系	32	保 健 体 育 専 攻
2	社 会 情 報 学 部	43	教 育 人 間 科 学 系	43	障 害 児 教 育 専 攻
		10	社 会 情 報 学 科	00	
2	社 会 情 報 学 部	20	医 学 科	00	
		30	保 健 学 科	31	看 護 学 専 攻
3	医 学 部	30	保 健 学 科	32	検 査 技 術 科 学 専 攻
				33	理 学 療 法 学 専 攻
				34	作 業 療 法 学 専 攻
				00	
4	理 工 学 部	40	化 学 ・ 生 物 化 学 科	00	
		41	機 械 知 能 シ ス テ ム 理 工 学 科		
		42	環 境 創 生 理 工 学 科		
		43	電 子 情 報 理 工 学 科		

## 13. 別 記

### 教育学部実技試験の内容等

#### ○ 音楽専攻

声楽試験と器楽試験を次のとおり行います。選択事項を「様式13 実技試験に関する届出用紙（教育学部 音楽専攻志願者用）」の所定の欄に記入の上、出願書類とともに提出してください。

#### 声楽試験

次の(1)、(2)を演奏してください。

(1) コールユーブンゲン視唱

コールユーブンゲン 第1巻 (No. 1～No.87) より当日1曲指定します。

【注】※ 以下の楽譜を参考にしてください。(試験において使用する楽譜は本学で用意します。)

大阪開成館：『全訳コールユーブンゲン』

音楽之友社：『コールユーブンゲン 巻1』

全音楽譜出版社：『全訳コールユーブンゲン 1』

(2) 以下の歌曲の中から任意の1曲を原語により暗譜で演奏してください。

(a) Scarlatti, A. : Se Florindo è fedele 「フロリンドが誠実なら」(変イ長調・変口長調)

(b) Gasparini, F. : Lasciar d'amarti 「あなたへの愛を捨てることは」(ヘ短調・ト短調)

【注】※ 1 出願時、調性を必ず選択してください。選択していないものは受け付けません。また、出願後の変更は認めません。

※ 2 伴奏者は本学で用意します。

※ 3 邦訳・調性は全音楽譜出版社『イタリア歌曲集1』によります。

## 器楽試験

## 選択課題

下記、(a)、(b)いずれかを選択してください。

## (a) ピアノ

以下の①、②より各1曲を選び、2曲を演奏してください。演奏曲順は①→②とします。暗譜演奏で、繰り返しは省略してください。

## ① 任意の練習曲（ただし以下の曲集より選んでください。）

Czerny: Etudes de Mécanisme Op.849（ツェルニー 30番練習曲）

Czerny: Schule der Geläufigkeit Op.299（ツェルニー 40番練習曲）

Cramer=Bülow: 60 Ausgewählte Etüden（クラマー=ビューロー 60練習曲）

Moszkowski: Vingt petites études pour piano Op.91（モシュコフスキー 20の小練習曲）

【注】※ 「ツェルニー」を「チェルニー」と表記してある楽譜もあります。

## ② 任意の自由曲

## (b) 管、弦、打楽器（邦楽器を含む）

次の①、②を演奏してください。暗譜演奏で繰り返しは省略してください。

## ① 次の楽器の中から一つを選択し、中級程度以上の任意の楽曲又は練習曲を無伴奏で演奏してください。（4分程度）

管楽器：フルート、オーボエ、クラリネット、サキソフォン、ファゴット、ホルン、  
トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ

弦楽器：ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

打楽器：小太鼓、マリンバ

邦楽器：箏、三味線

【注】※ 使用する楽器は各自持参してください（マリンバは大学のもの〔音域A～C 4⅓オクターヴ〕を使用し、マレットは持参してください）。

## ② 任意の楽曲又は練習曲をピアノで演奏してください。

(注) 声楽試験及び器楽試験においては、演奏を途中で打ち切ることがあります。

## ○ 美術専攻

用意された材料・用具を用いた立体造形物の制作並びにそれをモチーフとする鉛筆素描。

- 素描のための鉛筆、消具等は、受験者が用意してください。
- 試験時間は3時間です。



## 14. 平成30年度入試情報開示について

群馬大学では、特別入試について、次のとおり開示し提供します。

### (1) 開示する基本的情報

志願者数 受験者数 合格者数 入学者数 入学辞退者数	}	……報道機関を通じて提供するとともに、平成30年5月1日（火）以降に、本学のホームページにて掲載します。
--	---	--

- 小論文、面接、実技試験の「評価のポイント」…平成30年10月頃までに、本学のホームページにて掲載します。

### (2) 閲覧による開示情報

- 入学に関する規程・規則等
- 入試実施体制

開示期間は、平成30年4月9日（月）から5月31日（木）までとします。（土・日曜日、祝休日を除く。）

## 15. 入学志願者の個人情報保護について

群馬大学では、提出された出願書類により取得した志願者の個人情報及び入学試験の実施により取得した受験者の個人情報について、「国立大学法人群馬大学保有個人情報管理規程」等に基づいて取扱い、次の目的以外には利用しません。

- 入学者選抜に関する業務（統計処理などの付随する業務を含む。）
- 入学手続完了者にあつては、入学者データとして入学後の就学指導業務、学生支援業務及び授業料徴収業務

なお、本学の上記業務にあたり、一部の業務を個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、外部の事業者へ委託することがあります。

また、国公立大学の一般入試における合格決定業務を円滑に行うため、推薦合格者の氏名、本学の推薦入試受験番号、大学入試センター試験の受験番号及び入学手続等に関する個人情報に限って、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。

◎ 受験の際の宿泊について

群馬大学では、受験の際の宿泊施設等の斡旋は行いません。

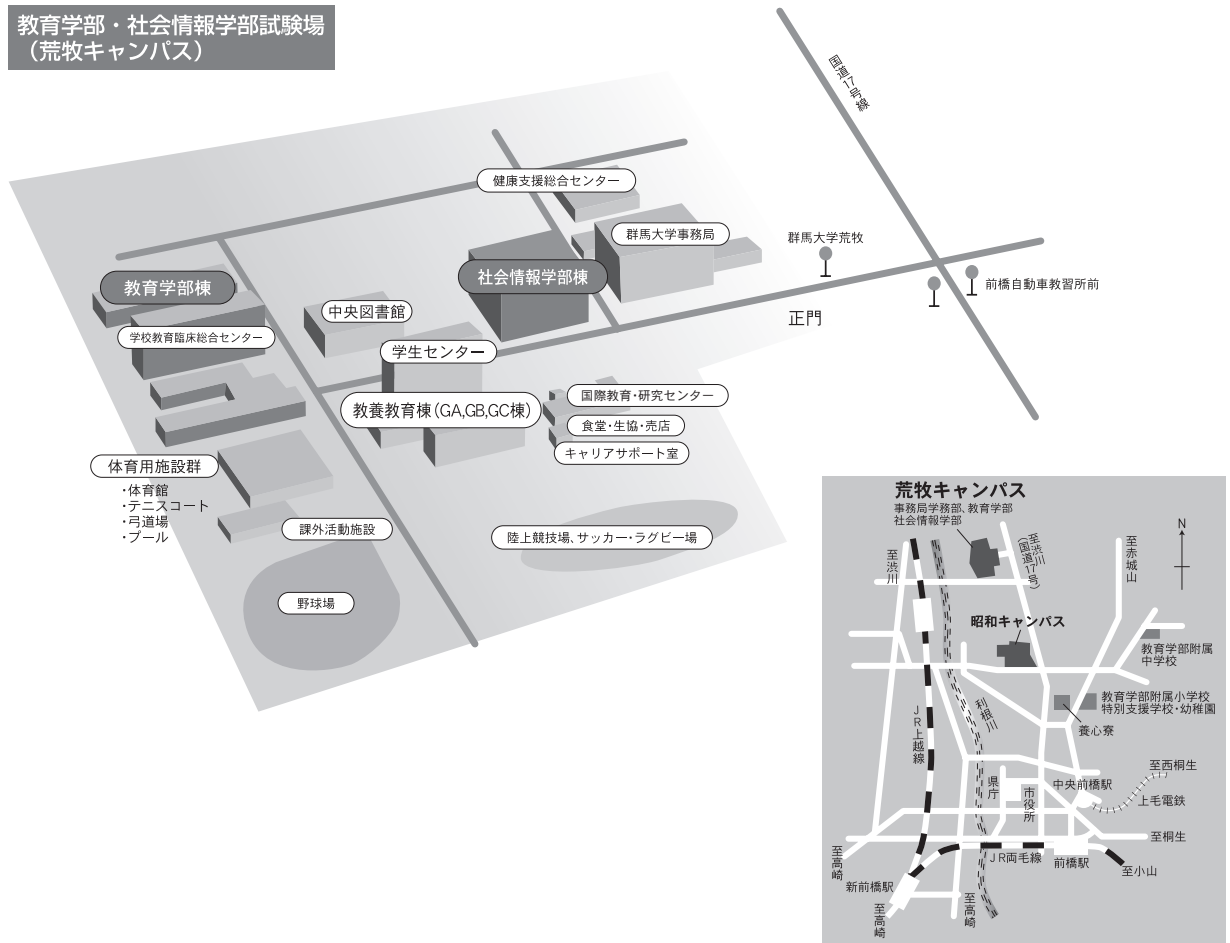
◎ 試験場までの交通案内

○ 教育学部・社会情報学部

乗車場所	バス行き先案内表示	下車停留所	所要時間	備考
JR両毛線 前橋駅北口 2番乗り場	・群馬大学荒牧経由渋川市内循環渋川駅行 ・群馬大学荒牧経由渋川駅行 ・群馬大学荒牧経由小児医療センター行	群馬大学荒牧	約28分	関越交通 バス
	・渋川市内循環渋川駅行 ・渋川駅行 ・小児医療センター行	前橋自動車教習所前	約25分徒歩10分	
JR上越線 渋川駅前	・群馬大学荒牧経由前橋駅行 ・渋川市内循環群馬大学荒牧経由前橋駅行	群馬大学荒牧	約28分	関越交通 バス
	・前橋駅行 ・渋川市内循環前橋駅行	前橋自動車教習所前	約25分徒歩10分	

- ※ 試験場への自動車・オートバイ等の乗入れは、禁止します。
- ※ JR群馬総社駅及びJR新前橋駅からは、荒牧キャンパスを経由するバスはありませんので、注意してください。
- ※ 公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時刻までに到着できるよう十分に余裕を持って試験場へお越しください。

教育学部・社会情報学部試験場  
(荒牧キャンパス)

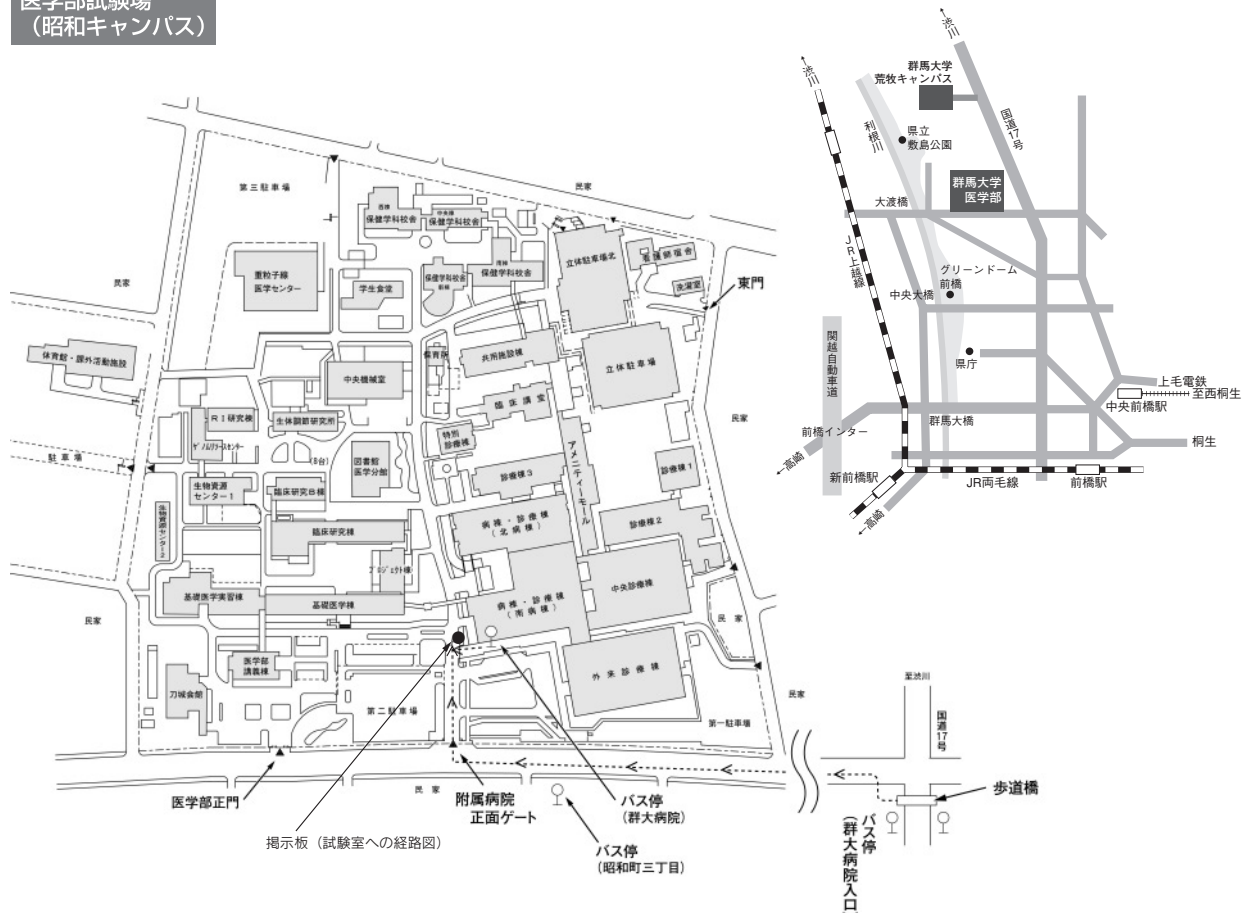


○ 医 学 部

乗車場所	バス行き先案内表示	下車停留所	所要時間	備考
JR両毛線 前橋駅北口 2番乗り場	・ 群大病院行 ・ 群大病院経由群馬大学荒牧行 (南橋団地経由含む)	群大病院	約15分	関越交通バス
	・ 渋川市内循環渋川駅行 (群馬大学荒牧経由含む) ・ 渋川駅行 (群馬大学荒牧経由含む) ・ 小児医療センター行 (群馬大学荒牧経由含む)	群大病院入口	約13分徒歩6分	
JR上越線 渋川駅前	・ 前橋駅行 (渋川市内循環、群馬大学荒牧経由含む)	群大病院入口	約30分徒歩6分	関越交通バス

- ※ 試験場への自動車・オートバイ等の乗入れは、禁止します。
- ※ JR群馬総社駅及びJR新前橋駅からは、昭和キャンパスを経由するバスはありませんので、注意してください。
- ※ 公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時刻までに到着できるよう十分に余裕を持って試験場へお越しください。

医学部試験場  
(昭和キャンパス)



○ 理 工 学 部

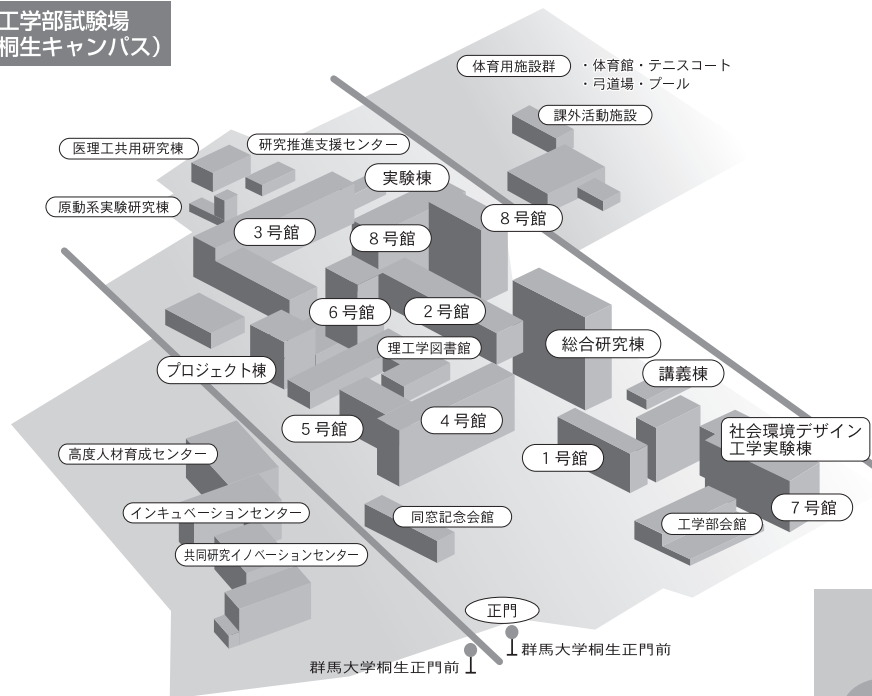
JR両毛線桐生駅下車、北方へ2.5Km

東武桐生線新桐生駅下車、北方へ4.1Km

乗 車 場 所	バス行き先案内表示	下車停留所	所要時間
JR両毛線桐生駅北口 おりひめバス「桐生駅北口」	桐生女子高前行 上菱団地行	「群馬大学桐生正門前」	約7分
JR両毛線桐生駅北口から徒歩約10分 おりひめバス「本町五丁目」	梅田ふるさとセンター前行		約4分
東武桐生線新桐生駅 おりひめバス「新桐生駅」	桐生女子高前行 上菱団地行	「群馬大学桐生正門前」	約15分

- ※ 試験場への自動車・オートバイ等の乗入れは、禁止します。
- ※ 公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時刻までに到着できるよう十分に余裕を持って試験場へお越しください。
- ※ 理工学部は、平成25年4月に工学部を改組して設置された学部ですが、施設の名称が「工学部」となっている場合がありますので、御留意ください。

理工学部試験場  
(桐生キャンパス)



受付場所は、各志願者に受験票を送付する際に同封する試験場案内図を参照してください。



## 必ずお読みください

### 各学科・専攻の教育ポリシー

#### 教育学部

〔国語専攻〕

入学者受入方針（アドミSSION・ポリシー）～このような人を求めています～

##### <人材育成の目標>

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

##### <入学者に求める能力・資質>

- 1 高等学校の教育課程、特に人文科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 主体的かつ協働的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 3 国語教育に対して強い探究心を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

##### <入学に際し必要な基礎学力>

古文・漢文を含む国語全般についての科目を履修していること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

##### <教育の目標>

- 1 幅広く深い教養と国語教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 国語科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

##### <教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、国語専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。

具体的に専門科目では、

- (1) 教科専門科目  
国語科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
- (2) 教職専門科目

教育の本質、教育課程、国語科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。

(3) 総合的・実践的専門科目

複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。

(4) 教育実習関連科目

教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。

上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践力指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) ~このような人材を育てます~
------------------------------------

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 国語科専門科目の内容について必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 国語学、国文学、漢文学、書道についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。



## 〔社会専攻〕

## 入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

## ＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

## ＜入学者に求める能力・資質＞

- 1 高等学校の教育課程、特に地理歴史科及び公民科の諸科目について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 人間社会の諸問題に幅広い探究心を持っている人
- 3 自らのことばで表現・発信しながらさまざまな立場の人々と積極的に議論できる人

## ＜入学に際し必要な基礎学力＞

- 高等学校で「世界史B」、「日本史B」、「地理B」のうち2科目以上を履修していることが望ましい。
- 高等学校で「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」のうち2科目以上を履修していることが望ましい。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

## ＜教育の目標＞

- 1 幅広く深い教養と社会科教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 社会科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

## ＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、社会専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。

具体的に専門科目では、

- (1) 教科専門科目  
社会科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
- (2) 教職専門科目  
教育の本質、教育課程、社会科・地理歴史科・公民科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
- (3) 総合的・実践的専門科目  
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的

に上記の課題・方法について学ぶ。

(4) 教育実習関連科目

教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。

上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践力指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～
-----------------------------------

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 社会科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 日本史及び外国史、地理学、法律学、政治学、社会学、経済学、哲学、倫理学についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

## 〔数学専攻〕

## 入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

## ＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

## ＜入学者に求める能力・資質＞

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について総合的理解のある人
- 2 論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢を持ち、新しい課題に積極的に取り組む意欲のある人

## ＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bを履修していること。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

## ＜教育の目標＞

- 1 幅広く深い教養と数学教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 数学科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

## ＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、数学専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。

具体的に専門科目では、

- (1) 教科専門科目  
数学科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
- (2) 教職専門科目  
教育の本質、教育課程、数学科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
- (3) 総合的・実践的専門科目  
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。
- (4) 教育実習関連科目  
教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。

上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～
-----------------------------------

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 数学科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 代数学、幾何学、解析学、確率論、統計学、コンピューターについての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

## 〔理科専攻〕

## 入学受入方針（アドミSSION・ポリシー）～このような人を求めています～

## ＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

## ＜入学者に求める能力・資質＞

- 1 高等学校の教育課程（特に理科）について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 自然科学と理科教育に対して強い興味・関心を持っている人
- 3 理科の知識に基づいた思考・判断ができ、それを論理的に表現できる人
- 4 周囲の人々と協働しながら、実験・観察に主体的に取り組むことができる人

## ＜入学に際し必要な基礎学力＞

物理、化学、生物、地学のうち2科目及び数学Ⅲを履修していることが望ましい。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

## ＜教育の目標＞

- 1 幅広く深い教養と理科教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 理科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

## ＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、理科専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。  
具体的に専門科目では、
  - (1) 教科専門科目  
理科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
  - (2) 教職専門科目  
教育の本質、教育課程、理科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
  - (3) 総合的・実践的専門科目  
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。

(4) 教育実習関連科目

教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。

上記科目区分で、講義・演習・実験・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実験科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～
-----------------------------------

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 理科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 物理学、化学、生物学、地学、物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。



## 〔音楽専攻〕

## 入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

## ＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

## ＜入学者に求める能力・資質＞

- 1 高等学校の教育課程、特に「芸術」の「音楽」分野において、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解があり、声楽・器楽等の十分な知識や技能を有している人
- 2 音楽理論をよく理解し、音楽についての深い思考力、判断力、表現力を持っている人
- 3 主体的に、そして多様な人々と協働して学ぶことができ、実践することができる人

## ＜入学に際し必要な基礎学力＞

音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（あるいは同等の科目）のうち2つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

## ＜教育の目標＞

- 1 幅広く深い教養と音楽教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 音楽科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

## ＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、音楽専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。  
具体的に専門科目では、
  - (1) 教科専門科目  
音楽科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
  - (2) 教職専門科目  
教育の本質、教育課程、音楽科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
  - (3) 総合的・実践的専門科目  
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。

(4) 教育実習関連科目

教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。

上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～
-----------------------------------

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 音楽科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 ソルフェージュ、声楽、器楽、指揮法、音楽理論、作曲法、音楽史についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

## 〔美術専攻〕

## 入学受入方針（アドミSSION・ポリシー）～このような人を求めています～

## ＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

## ＜入学者に求める能力・資質＞

- 1 高等学校の教育課程、特に芸術を含む人文・社会科学分野等において、大学教育を受けるにふさわしい思考力・判断力・表現力等の総合的学力を身に付けている人
- 2 美術の基礎的な造形表現能力を持ち、美術と社会との関係を深く考えることができる人
- 3 主体的に学び、協働して取り組む姿勢を持っている人
- 4 創造活動や新たな課題に積極的に取り組む意欲がある人

## ＜入学に際し必要な基礎学力＞

- ・美術Ⅰを履修していることが望ましい。
- ・美術館等に行くことを通して社会や教育における美術の働きについて考える習慣を身に付けていることが望ましい。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

## ＜教育の目標＞

- 1 幅広く深い教養と美術教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 美術科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

## ＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、美術専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。

具体的に専門科目では、

- (1) 教科専門科目  
美術科専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
- (2) 教職専門科目  
教育の本質、教育課程、図工科指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
- (3) 総合的・実践的専門科目  
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法

について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。

(4) 教育実習関連科目

教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。

上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 美術科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論及び美術史についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

〔保健体育専攻〕

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

＜入学者に求める能力・資質＞

- 1 保健体育及び運動・スポーツ活動に興味を持ち、それらに関する基礎的な知識・技能を有する人
- 2 保健体育及び運動・スポーツ活動に関わる課題を見出し、課題解決に向けて思考、判断、表現しながら、粘り強く努力する人
- 3 教職を目指すために、主体的かつ協働的に学ぼうとする人
- 4 子どもたちとともに運動の楽しさや喜びを味わえる人

＜入学に際し必要な基礎学力＞

- 高等学校までの保健体育に関する基礎的知識を有している。
- 運動やスポーツ活動における基礎体力及び運動技能を有している。
- 自信を持って実践できる運動やスポーツ活動の経験を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

- 1 幅広く深い教養と保健体育科教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 保健体育科教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、保健体育専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。  
具体的に専門科目では、
  - (1) 教科専門科目  
保健体育専門科目の内容に関し深い学識を身に付ける。
  - (2) 教職専門科目  
教育の本質、教育課程、保健体育科の指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。

## (3) 総合的・実践的専門科目

複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。

## (4) 教育実習関連科目

教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校・中学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。

上記科目区分で、講義・演習・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

## &lt;教育内容・方法&gt;

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

## &lt;学修成果の評価&gt;

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～

## &lt;学位授与の条件、達成度・能力評価の基準&gt;

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 保健体育専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

## &lt;学修成果の目標&gt;

- 1 体育実技、体育原理、体育心理学、体育史、運動学、生理学、衛生学及び公衆衛生学、学校保健についての専門的知識を修得していること。
- 2 小学校及び中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 3 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 4 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。



## 〔障害児教育専攻〕

## 入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

## ＜人材育成の目標＞

優れた人間性と豊かな教養を有し、各教科についての深い認識と実践的な指導力を身に付けた、地域の教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指します。

## ＜入学者に求める能力・資質＞

- 1 高等学校の教育課程について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解のある人
- 2 主体的に学ぶ姿勢と、教員にふさわしい論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 3 特別支援教育に対し、強い意欲がある人

## ＜入学に際し必要な基礎学力＞

特別支援教育に携わる教員にふさわしい、読解・記述の能力、各教科の基礎知識を備えていること。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

## ＜教育の目標＞

- 1 幅広く深い教養と特別支援教育及び教職に関する深遠な専門知識を身に付けられる教育
- 2 特別支援学校の教員として、思考力や表現力、課題解決能力、創造的な探究能力を身に付けられる教育
- 3 教員免許状を取得できる専門知識と実践的指導力を身に付けられる教育
- 4 教員として必要なコミュニケーション能力を身に付けられる教育

## ＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目からなる教養教育により、学士力、幅広く深い教養、総合的な判断力等を育成し、教員としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、障害児教育専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。  
具体的に専門科目では、
  - (1) 障害児教育専門科目  
障害に関する深い学識、障害のある児童・生徒の教育に関する理論・方法・技術について学ぶ。
  - (2) 教職専門科目  
教育の本質、教育課程、各教科の指導法、生徒指導、教育相談に関する理論・方法・技術について学ぶ。
  - (3) 総合的・実践的専門科目  
複数の教科にまたがる総合的な内容・テーマ、教育現場における実践的な課題・方法について学ぶ。また、フレンドシップ教育実践・野外体験に関する科目を通して体験的に上記の課題・方法について学ぶ。

(4) 教育実習関連科目

教育現場体験学習、授業実践基礎学習、小学校又は中学校における教育実習、特別支援学校における教育実習を通じて実践的指導力を養う。

(5) 教科専門科目

各教科の内容に関し深い学識を身に付ける。

上記科目区分で、講義・演習・実験・実習を行い、教育現場での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義科目・演習科目・実験科目・実習科目の開設
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践的指導力を養うための教育実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ専攻の定める単位を修得した者
- 2 特別支援教育及び各自が選択した教科専門科目の内容に関し必要な知識を備える者
- 3 教員に必要な知識と実践的指導力を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

- 1 特別支援教育の基礎理論、特別支援教育領域(聴覚、知的、肢体不自由、病弱)、特別支援教育領域以外の領域についての専門的知識を修得していること。
- 2 各自が選択した教科の専門的知識を修得していること。
- 3 特別支援学校の教員並びに小学校又は中学校の教員としての基礎知識を修得し、実践的指導力を身に付けていること。
- 4 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有していること。
- 5 他者との協調性を身に付け、多様な人々と協働して、課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

## 医学部保健学科

〔看護学専攻〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

### <人材育成の目標>

- 1 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
- 2 本学科での学習を通して、学士（看護学）に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
- 3 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
- 4 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
- 5 看護師・助産師・保健師となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

### <入学者に求める能力・資質>

- 1 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
- 2 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
- 3 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
- 4 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
- 5 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

### <入学に際し必要な基礎学力>

- 1 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

### <教育の目標>

- 1 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
- 2 基礎的学士力「知識、技能、態度、創造的思考力」を身に付けられる教育
- 3 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
- 4 チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
- 5 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
- 6 看護師国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育
- 7 助産師及び保健師コース受講者については、助産師及び保健師国家試験受験に必要な知識と技術を身に付けられる教育

### <教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育により、いろいろな考え方を学ぶことで、看護専門職のバックグラウンドとしての

基礎的素養を身に付ける教育を展開する。

- 2 専門基礎・支持的科目では、保健医療の基礎・在り方を学ぶことで、看護専門科目を学び、実践していくための素養を身に付ける教育を展開する。
- 3 教養教育及び専門・基礎支持的科目を基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。

具体的には、専門科目では、

- I 看護学の基礎を学ぶ。
- II 対象や場に応じた看護学を学ぶ。
- III I、IIを発展・統合する。

という形式で、講義・演習・実験・実習を行い、専門分野での実践力を養う。

#### <教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督励
- 4 実践力を養うための臨地実習の実施

#### <学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～

#### <学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ看護学専攻に定められた単位を修得した者
- 2 看護師に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者
- 3 助産師及び保健師コース受講者については、助産師及び保健師に必要な知識と技術を修得した者

#### <学修成果の目標>

保健医療・福祉におけるチームの中で看護の専門性を発揮し、ケアの調整やマネジメントにリーダーシップを発揮でき、さらに、国際化の進展に対応して世界の看護に視野を広げ、国際看護協力が実践できる人材になること。

具体的には、

- 1 全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
- 2 医療の基礎となる、人間と生活・社会の理解や論理的・科学的思考を高める学問などについて修得していること。
- 3 看護学分野での研究に必要な手法及び思考法の基礎を修得していること。
- 4 看護学の対象となる人間のライフサイクル、人間理解を深める心理学・社会学の基礎理論や看護過程の方法論などの専門的知識と、看護実践能力を修得していること。
- 5 チーム医療を担う一員であることを認識しながら、看護活動の場の拡大に対応した看護実践能力を修得していること。

- 6 国際的な視野を持ちながら、国や地域レベルの健康課題の解決とシステムづくりに関わる、看護実践能力を修得していること。
- 7 助産師・保健師コースでは助産師・保健師に必要な知識と技術を修得していること。

## 〔検査技術科学専攻〕

## 入学受入方針（アドミSSION・ポリシー）～このような人を求めています～

## ＜人材育成の目標＞

- 1 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
- 2 本学科での学習を通して、学士（保健学）に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
- 3 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
- 4 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
- 5 臨床検査技師・細胞検査士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

## ＜入学者に求める能力・資質＞

- 1 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
- 2 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
- 3 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
- 4 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
- 5 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

## ＜入学に際し必要な基礎学力＞

- 1 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

## ＜教育の目標＞

- 1 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
- 2 基礎的学士力「知識、技能、態度、創造的思考力」を身に付けられる教育
- 3 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
- 4 チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
- 5 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
- 6 臨床検査技師国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育
- 7 細胞検査士養成コース受講者については、細胞検査士資格試験受験に必要な知識と技術を身に付けられる教育

## ＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 これを基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、



実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

#### <教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 実践力を養うための臨地実習の実施

#### <学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～
-----------------------------------

#### <学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ検査技術科学専攻に定められた単位を修得した者
- 2 臨床検査技師に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者
- 3 細胞検査士養成コース受講者については、細胞検査士に必要な知識と技術を修得した者

#### <学修成果の目標>

保健医療及び医療の基礎となる生命現象に対する知識・理論を理解し、検査技術科学分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身につけていること。

具体的には、

- 1 全人的医療を理解し、実践するための能力を身につけていること。
- 2 医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、生化学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
- 3 検査技術科学分野の新たな発展に必要な研究手法及び研究的思考法の基礎を修得していること。
- 4 臨床検査技師に必要な検体検査、生理機能検査、病気の早期発見のための検査、遺伝子検査、画像解析などの基礎的・専門的知識と技術を修得していること。
- 5 チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身につけていること。
- 6 国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。
- 7 細胞検査士養成コースでは細胞検査士に必要な知識と技術を修得していること。

〔理学療法学専攻〕

入学受入方針（アドミSSION・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

- 1 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
- 2 本学科での学習を通して、学士（保健学）に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
- 3 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
- 4 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
- 5 理学療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

- 1 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
- 2 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
- 3 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
- 4 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
- 5 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

- 1 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
- 2 基礎的学士力「知識、技能、態度、創造的思考力」を身に付けられる教育
- 3 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身につけられる教育
- 4 チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
- 5 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
- 6 理学療法士国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身につける教育を展開する。
- 2 これを基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
- 2 シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の督促
- 4 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ理学療法学専攻に定められた単位を修得した者
- 2 理学療法士に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

保健医療の基礎知識・理念を理解し、理学療法学分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身につけていること。

具体的には、

- 1 全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
- 2 医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
- 3 理学療法学分野での新しい理論や治療技術の研究・開発力の基礎を修得していること。
- 4 理学療法理念を理解し、障害に対する評価方法と、その障害に対する運動療法、物理療法、生活環境支援などの介入方法の基礎的知識と技術を修得していること。
- 5 チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身につけていること。
- 6 国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。

〔作業療法学専攻〕

入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

＜人材育成の目標＞

- 1 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
- 2 本学科での学習を通して、学士（保健学）に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
- 3 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
- 4 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
- 5 作業療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

＜入学者に求める能力・資質＞

- 1 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
- 2 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
- 3 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
- 4 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
- 5 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

＜入学に際し必要な基礎学力＞

- 1 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

＜教育の目標＞

- 1 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
- 2 基礎的学士力「知識、技能、態度、創造的思考力」を身に付けられる教育
- 3 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
- 4 チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
- 5 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
- 6 作業療法士国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育

＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身につける教育を展開する。
- 2 これを基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習（予習・復習）の督励
- 4 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ作業療法学専攻に定められた単位を修得した者
- 2 作業療法士に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

保健医療福祉における病気や障害に関する医学・保健学の知識に加え、人体の構造やメカニズムを理解し、作業療法分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身に付けていること。

具体的には、

- 1 全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
- 2 医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
- 3 作業療学分野の新たな発展に必要な研究手法及び研究的思考法の基礎を修得していること。
- 4 作業療法士に必要な作業療法の理論、身体障害、発達障害、高齢期障害、精神障害などの専門的知識と実践応用能力を習得していること。
- 5 チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
- 6 国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。



## 理工学部

〔化学・生物化学科〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

### <人材育成の目標>

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開、及び柔軟で質の高い修学支援を基に、自然科学の基礎知識に立脚し、物質の構成原理・物性の解明、新規反応の開発、新規機能材料の創製、生命現象に関わる生理活性物質の機能解明等の諸課題に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野を備え、人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

### <入学者に求める能力・資質>

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも化学、生物学分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

### <入学に際し必要な基礎学力>

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理（物理基礎を含む。）、化学（化学基礎を含む。）、生物（生物基礎を含む。）（あるいは同等の科目）のうち二つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

### <教育の目標>

我が国の社会を支える研究者・技術者としての倫理観を身に付け、自然科学の基礎知識に立脚し、物質の構成原理・物性の解明、新規反応の開発、新規機能材料の創製、生命現象に関わる生理活性物質の機能解明等について基礎から応用までを学ぶ教育を展開する。

### <教育課程の構成>

- 1 初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実験・演習を重視し、専門分野での実践力を養う。
- 3 また、社会的自立に必要なスキルの修得のための科目も提供する。



<教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験の各科目
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、授業外の自己学習（予習・復習）の督励
- 4 教務システム等を利用したポートフォリオ等の記録作成を通しての、自己学習の充実

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科の定める単位を修得した者
- 2 人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持つ者
- 3 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

自然科学に加え、化学に対する総合的な知識・理論の基礎を理解し、物質の構成原理と物性の解明、新規反応の開発に基づく機能材料の創製、及び生命現象に関わる生理活性物質の機能解明等に関する基礎・専門的知識と実践的応用能力を身に付けていること。

具体的には、

- 1 自然科学の基礎となる数学、物理学、化学、生物学などについて、その基礎を修得していること。
- 2 物質（有機・無機・高分子・生体物質等）の性質、構造、反応、機能、合成等及び生物の構造・機能についての基礎的・専門的知識と実践的応用能力を修得していること。
- 3 化学技術者としての基礎技術、理工学技術者としての基礎知識を修得していること。
- 4 国際コミュニケーションスキルの基本を修得していること。
- 5 社会的自立に必要な就業力、社会生活の基礎となる教養と汎用性スキルを修得していること。

## 〔機械知能システム理工学科〕

## 入学受入方針（アドミSSION・ポリシー）～このような人を求めています～

## ＜人材育成の目標＞

幅広い自然科学と人文科学の教養と、機械の工学と技術に関する深遠な専門知識を有し、これをもって人類の持続的な発展と福祉に寄与し、さらに、地球環境との調和を意識しながら新しい機械と機械システムを創造していくことができる柔軟性豊かな高度専門職業人を育成

## ＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 機械とその知能化に興味があり、理工学、中でも物理学、数学分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

## ＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理（物理基礎を含む。）と化学（化学基礎を含む。）（あるいは同等の科目）、及び英語を履修していることが望ましい。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

## ＜教育の目標＞

幅広い自然科学と人文科学の教養と、機械の工学と技術に関する深遠な専門知識を有し、これをもって人類の持続的な発展と福祉に寄与し、さらに、地球環境との調和を意識しながら新しい機械と機械システムを創造していくことができる柔軟性豊かな高度専門職業人を育成するための基礎から応用までを学ぶ教育を展開する。

## ＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のための、実験・実習・演習を重視し、専門分野での実践力を養う。
- 3 以上の知識、実践力を表現するプレゼンテーション力、英語力の向上に必要な科目を提供するとともに、社会的自立に必要なスキル修得のための科目も提供する。

### <教育内容・方法>

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実習・実験の各科目
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、授業外の自己学習（予習・復習）の督促
- 4 教務システムの利用、ポートフォリオ（自己診断シート）や学習記録表などを活用した自己学習の充実

### <学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。また、ディプロマ・ポリシーの学修成果の目標の各項目の達成度は、ポートフォリオ（自己診断シート）等を通して学生が確認する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

### <学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科の定める単位を修得した者
- 2 人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持つ者
- 3 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

### <学修成果の目標>

幅広い自然科学と人文科学の教養と、機械の工学と技術に関する深遠な専門知識を有し、これをもって人類の持続的な発展と福祉に寄与し、さらに、地球環境との調和を意識しながら新しい機械と機械システムを創造していくことができる能力を身に付け、柔軟性豊かな高度専門職業人として社会に貢献する能力を有していること。

具体的には、

- 1 幅広い教養を身に付け、科学技術が人間社会や環境に与える影響を健全に判断・評価できる能力、及び技術者倫理を修得していること。
- 2 自然科学の本質と基礎原理を十分に理解し、論理的思考により、工学的問題に応用できる能力を修得していること。
- 3 エネルギー変換のプロセスを正確に理解し、エネルギー的に最適で、しかも環境に配慮した機械の設計や開発に寄与できる知識を修得していること。
- 4 機械材料の特性・本質・限界を理解するとともに、機械の設計、製造、運用、廃棄にわたるライフサイクルを通して、最適な材料及びその加工方法の選定ができる能力を修得していること。
- 5 機械の構造や機構・運動の解析能力を身に付け、電子情報技術を融合し機械の知能化を進めることができる知識を修得していること。
- 6 機械・人類・環境の調和を基礎とした機械知能システム理工学を学修し、目的に合った機械システムを設計・創造する能力を修得していること。
- 7 自ら問題を発見し、それを解決する手法、いわゆるデザイン能力を身に付け、さらに、未知なる問題に挑戦する精神を持ち、将来の先端的技術開発に携わることができる素養を身に付けていること。

- 8 自らの研究成果や意見を具体的に表現し、発表・伝達する能力を修得していること。  
また、語学能力及び国際的に協調できる能力を修得していること。
- 9 問題に対して他者と議論し、協力し、協調しながらチームとして解決し、発展させてゆくチームワーク力を身に付けていること。

## 〔環境創生理工学科（環境エネルギーコース）〕

## 入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

## ＜人材育成の目標＞

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開、及び柔軟で質の高い修学支援を基に、自然科学の基礎知識に立脚し、物質とエネルギーの性質を理解し、それらの流れと収支を捉えた上で、環境問題やエネルギーに関する諸課題、又は自然環境との調和を図りながら、種々の社会基盤施設の計画・設計・施工・維持管理に関する諸課題に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野を備え、人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

## ＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも物理、化学分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

## ＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理（物理基礎を含む。）、化学（化学基礎を含む。）及び英語を履修していることが望ましい。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

## ＜教育の目標＞

我が国の社会を支える研究者・技術者として、自然科学の基礎知識に立脚し、物質・エネルギー収支に基づくプロセス設計、化学工学、及び環境理工学等を基礎から応用までを学ぶ教育を展開する。

## ＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、本コースが定める学修成果の目標を達成するための専門教育を、カリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実験・演習を重視し、専門分野での実践力を養う。
- 3 自ら課題を見出し、積極的に解決へ向けて進められるスキルを修得するための科目を提供する。

### ＜教育内容・方法＞

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験の各科目
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標の達成に向けた、授業外の自己学習の督促
- 4 学生が自分自身で学習・教育目標の達成状況を逐次確認できるためのポートフォリオ（自己診断シート）等の活用

### ＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。また、ディプロマ・ポリシーにおける学修成果の目標の各項目の達成度は、ポートフォリオ（自己診断シート）等を通して学生が確認する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

### ＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科及び本コースの定める単位を修得した者
- 2 人間社会・自然環境と調和した科学・技術の発展に主体的に貢献しようとする意欲を持つ者
- 3 職業人、技術者、研究者としての自覚を持つ者

### ＜学修成果の目標＞

自然科学、化学工学に対する総合的な知識・理論の基礎を理解し、物質・エネルギー収支に基づくプロセス設計、化学工学、及び環境理工学等に関する基礎・専門的知識と実践的応用能力を修得するために、以下の五つの学習・教育目標を掲げる。

- 1 自然科学の基礎となる数学、物理学、化学、生物学などについて、その基礎を修得していること。
- 2 物質・エネルギー、化学工学、環境理工学についての基礎的・専門的知識と実践的応用能力を修得していること。
- 3 化学工学技術者・理工学技術者としての基礎知識・基礎技術を修得し、かつ自ら課題を分析し、実施計画を組み立てる能力を修得していること。
- 4 国際コミュニケーションスキルの基本を修得していること。
- 5 社会的自立に必要な就業力と汎用的スキルを修得していること。



## 〔環境創生理工学科（社会基盤・防災コース）〕

## 入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

## ＜人材育成の目標＞

創造的な探究心を実践力に結びつける教育の展開、及び柔軟で質の高い修学支援を基に、自然科学の基礎知識に立脚し、物質とエネルギーの性質を理解し、それらの流れと収支を捉えた上で、環境問題やエネルギーに関する諸課題、又は自然環境との調和を図りながら、種々の社会基盤施設の計画・設計・施工・維持管理に関する諸課題に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野を備え、人間の尊厳に立脚して社会で広く活躍できる人材の育成

## ＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも物理、化学分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

## ＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理（物理基礎を含む。）、化学（化学基礎を含む。）及び英語を履修していることが望ましい。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

## ＜教育の目標＞

我が国の社会を支える研究者・技術者としての倫理観を身に付け、自然科学の基礎知識に立脚し、自然環境との調和を図りながら、種々の社会基盤施設を計画・設計・施工・維持管理することのできる幅広い知識を持った人材を育てる教育を展開する。

## ＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に編成された、人文・社会科学、自然科学、外国語科目等の教養教育、また、専門教育への円滑な移行のための専門基礎教育により、研究者・技術者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
- 2 上記1を基盤として、本コースが定める学修成果の目標を達成するための専門教育を、カリキュラムマップに則って系統的に行う。
- 3 自ら課題を見出し、積極的に解決へ向けて進められるスキルを修得するための科目や、社会的自立に必要なスキルを身に付けるための科目を提供する。
- 4 日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定基準を満たす教育を展開する。

### ＜教育内容・方法＞

- 1 学生の主体的・能動的な参加に基づいた科目の設定
- 2 シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
- 3 シラバス記載の目標達成に向けた、授業外の学習の督励
- 4 学生が自分自身で学習・教育目標の達成状況を逐次確認できるためのポートフォリオ（自己診断シート）等の活用

### ＜学修成果の評価＞

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績（達成度）評価基準に基づいて行い、学則に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。また、ディプロマ・ポリシーにおける学修成果の目標の各項目の達成度は、ポートフォリオ（自己診断シート）等を通して学生が確認する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

### ＜学位授与の条件、達成度・能力評価の基準＞

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科及び本コースの定める単位を修得した者
- 2 人文科学、社会科学及び自然科学と理工学の関わり合いを理解し、土木工学の専門技術に関する知識とそれらを応用できる者
- 3 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持つ者

### ＜学修成果の目標＞

社会の要請する水準を満たす土木技術者としての素養を身に付けていること。具体的には、

- 1 グローバルな視野と基礎学力：人文・社会・自然科学と工学の関わり合いを理解し、工学の基礎素養を修得していること。
- 2 土木工学の専門知識と応用学力：土木工学主要分野の基礎を身に付け、様々な対象へ展開できる能力の基礎を修得していること。
- 3 自然環境・社会環境との調和及び技術者倫理：技術が自然環境・社会に与える影響や効果及び技術者倫理の基礎を修得していること。
- 4 課題の提案・解決能力：社会や技術の要請から自ら課題を見出し、解決するための思考及び行動力が身に付いていること。
- 5 コミュニケーション能力と国際性：論理的思考能力や、他者との協調性を身に付け、積極的に国内外の技術等に関心を持つ態度を身に付けていること。
- 6 課題の分析・計画立案能力：自ら課題を分析し、実施計画を組み立てる能力を修得していること。
- 7 自主的・継続的学習法の修得：自主的、継続的に学習する能力を修得していること。

## 〔電子情報理工学科（電気電子コース）〕

## 入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

## ＜人材育成の目標＞

個々の多様な探究心に応える基礎から応用までを網羅した体系的教育と、質の高い学修支援に基づいて、自然科学、特に数学・物理学・化学の基礎知識に立脚し、電気・電子・情報分野の理工学に関する深い造詣を身に付けるとともに、これらを基礎とした新たな学術領域や応用分野の開拓に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野と倫理観を有する、社会で広く活躍できる人材の育成

## ＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、身に付けた知識・能力を社会・地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも数学、物理学を基盤とする分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

## ＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理（物理基礎を含む。）、化学（化学基礎を含む。）（あるいは同等の科目）のうち一つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

## ＜教育の目標＞

技術者として必要となる数学、物理学、化学などの自然科学のみならず、電気電子工学の基礎理論から応用技術までを網羅した体系的なカリキュラムを通じて、電気電子工学に関連した幅広い基礎知識を身に付けるとともに、課題解決のための論理的思考に基づいた応用力と倫理観を有し、科学技術の発展にグローバルに貢献できる人材を育てる教育を展開する。

## ＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に人文科学、社会科学、自然科学、及び外国語教育などの教養教育を編成し、技術者としての幅広い教養を身に付けるとともに、国際コミュニケーション能力の基礎となる科目を提供する。
- 2 電子情報理工学の基礎の理解と、専門教育への円滑な移行を目的とした専門基礎科目を初年次に提供する。
- 3 勤労観・職業観の形成により、職業人、技術者、研究者としての将来像を主体的に設計する教育科目を初年次を中心に提供する。
- 4 2年次以降に学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則っ

て系統的に展開する。電気電子工学の基礎となる科目から、応用技術に関連する科目まで幅広く提供し、さらに、演習科目を充実させ、論理的な思考力と実践的な応用力を養う。また、技術者としての倫理観と社会的自立につながる就業力を養う科目を提供する。

- 5 卒業研究を実施し、論理的思考に基づく課題解決への応用力と、論理的に発表し討論する能力を養う。

#### <教育内容・方法>

- 1 シラバスに記述されたカリキュラムを構成する各授業科目の目的、内容（概要、方法、スケジュール）による授業の展開と、評価基準及び成績評価方法に基づいた評価の実施
- 2 各授業科目の学修成果の到達目標に向けた、学生の主体的・能動的な参加の督励
- 3 シラバスに記載の授業外学習情報を活用した授業外の主体的な学修機会（予習と復習）の提供

#### <学修成果の評価>

各授業科目の成績をシラバスに記載の評価方法に基づいて評価し、学則に定められた基準に照らしてS、A、B、C、Dの5段階で評定し、学修成果を評価する。さらに、各授業科目の評定を基にしてGPAを算出する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

#### <学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科及びコースの定める単位を修得した者
- 2 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持ち、電気電子工学の発展に国内外で貢献しようとする者
- 3 主体的に課題を発見し、論理的に課題を解決する能力を持つ者

#### <学修成果の目標>

数学、物理学、化学などの自然科学の基礎知識に加え、計算機を利用するための基礎知識、並びに電子情報理工学に関する基礎及び専門知識を身に付け、論理的思考により科学、工学に関する問題に応用する能力を修得していること。

具体的には、

- 1 自然科学の基礎となる数学、物理学、化学などについて、その基礎を修得していること。
- 2 電磁気学、電気回路などの電気電子工学の基礎知識を修得した上で、電子材料、電子デバイスの知識を身に付け、素子の設計開発に応用できる基礎能力を修得していること。
- 3 エネルギー変換や光エレクトロニクス、計測制御技術の知識を身に付け、最適なシステムの設計開発に応用できる基礎能力を修得していること。
- 4 情報通信やコンピュータのハードウェア及びソフトウェア技術の知識を身に付け、情報及び回路システムの設計開発に応用できる基礎能力を修得していること。
- 5 社会人のみならず国際人としての教養を持ち、英文技術資料を理解し英語によるコミュニケーション基礎能力を修得していること。
- 6 社会的自立につながる就業力と技術者としての倫理観を持ち、自ら課題を発見し他者と協調しながら計画的に解決する能力を修得していること。また、多面的かつ客観的に物事を捉え、その研究成果を論理的に発表し討論する能力を修得していること。



## 〔電子情報理工学科（情報科学コース）〕

## 入学受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

## ＜人材育成の目標＞

個々の多様な探究心に応える基礎から応用までを網羅した体系的教育と、質の高い学修支援に基づいて、自然科学、特に数学・物理学・化学の基礎知識に立脚し、電気・電子・情報分野の理工学に関する深い造詣を身に付けるとともに、これらを基礎とした新たな学術領域や応用分野の開拓に意欲的・創造的に取り組み、かつ幅広い国際的視野と倫理観を有する、社会で広く活躍できる人材の育成

## ＜入学者に求める能力・資質＞

本学科の人材育成、教育の目標に賛同し、身に付けた知識・能力を社会・地域に還元し、豊かな社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

- 1 高等学校の教育課程、特に自然科学分野について、大学教育を受けるにふさわしい総合的理解がある人
- 2 理工学、中でも数学、物理学を基盤とする分野に対して強い探究心を持っている人
- 3 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている人
- 4 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある人

## ＜入学に際し必要な基礎学力＞

数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B（あるいは同等の科目）、理科では、物理（物理基礎を含む。）、化学（化学基礎を含む。）（あるいは同等の科目）のうち一つ以上及び英語を履修していることが望ましい。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

## ＜教育の目標＞

技術者として必要となる数学、物理学、化学などの自然科学のみならず、情報科学の基礎理論から応用技術までを網羅した体系的なカリキュラムを通じて、情報科学に関連した幅広い基礎知識を身に付けるとともに、課題解決のための論理的思考に基づいた応用力と倫理観を有し、科学技術の発展にグローバルに貢献できる人材を育てる教育を展開する。

## ＜教育課程の構成＞

- 1 初年次を中心に人文科学、社会科学、自然科学、及び外国語教育などの教養教育を編成し、技術者としての幅広い教養を身に付けるとともに、国際コミュニケーション能力の基礎となる科目を提供する。
- 2 電子情報理工学の基礎の理解と、専門教育への円滑な移行を目的とした専門基礎科目を初年次に提供する。
- 3 勤労観・職業観の形成により、職業人、技術者、研究者としての将来像を主体的に設計する教育科目を初年次を中心に提供する。
- 4 2年次以降に学科の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に展開する。情報科学の基礎となる科目から、応用技術に関連する科目まで幅

広く提供し、さらに、演習科目を充実させ、論理的な思考力と実践的な応用力を養う。また、技術者としての倫理観と社会的自立につながる就業力を養う科目を提供する。

- 5 卒業研究を実施し、論理的思考に基づく課題解決への応用力と、論理的に発表し討論する能力を養う。

#### <教育内容・方法>

- 1 シラバスに記述されたカリキュラムを構成する各授業科目の目的、内容（概要、方法、スケジュール）による授業の展開と、評価基準及び成績評価方法に基づいた評価の実施
- 2 各授業科目の学修成果の到達目標に向けた、学生の主体的・能動的な参加の督励
- 3 シラバスに記載の授業外学習情報を活用した授業外の主体的な学修機会（予習と復習）の提供

#### <学修成果の評価>

各授業科目の成績をシラバスに記載の評価方法に基づいて評価し、学則に定められた基準に照らしてS、A、B、C、Dの5段階で評定し、学修成果を評価する。さらに、各授業科目の評定を基にしてGPAを算出する。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

#### <学位授与の条件、達成度・能力評価の基準>

- 1 所定の年限在籍し、かつ学科及びコースの定める単位を修得した者
- 2 職業人、技術者、研究者としての倫理観を持ち、情報科学の発展に国内外で貢献しようとする者
- 3 主体的に課題を発見し、論理的に課題を解決する能力を持つ者

#### <学修成果の目標>

数学、物理学、化学などの自然科学の基礎知識に加え、計算機を利用するための基礎知識、並びに電子情報理工学に関する基礎及び専門知識を身に付け、論理的思考により科学、工学に関する問題に応用する能力を修得していること。

具体的には、

- 1 自然科学の基礎となる数学、物理学、化学などについて、その基礎を修得していること。
- 2 計算や情報を視点とした情報科学の数学理論を身に付け、応用する能力を修得していること。
- 3 計算機の構造と原理、計算機による効率的な計算の方法、及び計算機システムの基礎知識を身に付け、それらに関する技術を開発する能力を修得していること。
- 4 計算機に推論や認識などの知的機能を実現するための理論を身に付け、その技術を開発する能力を修得していること。
- 5 社会人のみならず国際人としての教養を持ち、英文技術資料を理解し英語によるコミュニケーション基礎能力を修得していること。
- 6 社会的自立につながる就業力と技術者としての倫理観を持ち、自ら課題を発見し他者と協調しながら計画的に解決する能力を修得していること。また、多面的かつ客観的に物事を捉え、その研究成果を論理的に発表し、討論する能力を修得していること。



## コンビニエンスストア・クレジットカードでの検定料支払方法

検定料はコンビニエンスストア「セブン-イレブン」「サークルK」「サンクス」「ローソン」「ミニストップ」「ファミリーマート」、クレジットカードで24時間いつでも払い込みが可能です。 事務手数料が別途かかります。詳しくはWebサイトを御確認ください。

### 1 Webで事前申込み

画面の指示に従って必要事項を入力し、お支払いに必要な番号を取得。



<https://e-shiharai.net/>

携帯サイトの未成年者アクセス制限サービスを解除して御利用ください。

※入力内容を間違えた場合は、始めからもう一度やり直し、新たな番号を取得してお支払いください。  
申込み完了後に通知する支払期限内に代金を支払わなければ、入力情報は自動的にキャンセルされます。

本学HP  
からも  
アクセス  
できます！



クレジットカードでお支払いの場合

画面の指示に従って必要事項を入力し、そのままカード決済手続きを行ってください。

※カード決済完了後の修正・取消はできませんので、申し込みを確定する前に内容をよく御確認ください。

### 2 お支払い

各店舗へ

そのまま  
カード決済手続へ

**コンビニエンスストアでお支払いの場合**

●検定料はATMでは振り込みできません。必ずレジでお支払いください。  
●店頭端末機の画面デザイン等は、予告なく変更される場合があります。

**クレジットカードでお支払いの場合**

**7**  
【払込票番号 (13ケタ)】

●レジにて  
「インターネット支払い」と  
店員に伝え、印刷した【払込票】  
を渡すか、【払込票番号】を  
伝えてお支払いください。

マルチコピー機は使用しません。

お支払い後、必ず「入学検定料・  
選考料 取扱明細書」を受け取っ  
てください。

**K**  
【オンライン決済番号 (11ケタ)】

Kstation へ

各種支払い  
11ケタ等の番号を  
お持ちの方  
オンライン決済番号を  
入力してお支払い

【オンライン決済番号】  
を入力

店頭端末機より出力される「申込券」(受付票)を持って、30分以内にレジでお支払いください。

お支払い後、必ず「入学検定料・選考料 取扱明細書」を受け取ってください。

**LAWSON**  
【お客様番号 (11ケタ)】  
【確認番号 (4ケタ)】

Loppi へ

各種サービスメニュー  
各種代金・インターネット受付  
(紫のボタン)  
各種代金お支払い  
マルチペイメントサービス

【お客様番号】【確認番号】  
を入力

**FamilyMart**  
【お客様番号 (11ケタ)】  
【確認番号 (4ケタ)】

Famiポート へ

代金支払い  
各種代金お支払い  
番号入力画面に進む

【お客様番号】【確認番号】  
を入力

VISA MasterCard JCB

※お支払いされるカードの名義人は、  
受験者本人でなくても構いません。  
ただし、「基本情報入力」画面では、  
必ず受験者本人の情報を入力してく  
ださい。

Web申込みの際に、  
支払方法で  
「クレジットカード」を選択

カード情報を入力

全入力内容が表示されますので、  
正しければ「確定」を押す

お支払い完了です。  
E-支払いサイトの申込内容照会  
(URL: <https://e-shiharai.net/>) にアクセス  
して、「入学検定料・選考料 取扱明細書」  
を印刷してください。

### 3 出願手続

**【コンビニエンスストアでお支払いの場合】**

「入学検定料・選考料 取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、  
貼付台紙の所定欄に貼る。



※「収納証明書」を掲付けする際には、機本体の注意書きに  
「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載  
されている場合は御使用にならないでください。  
「収納証明書」が黒く変色する恐れがあります。



**【クレジットカードでお支払いの場合】**

支払い完了後、E-支払いサイトの「申込内容照会」  
にアクセスし、受付完了時に通知  
された【受付番号】と【生年月日】  
を入力して「入学検定料・選考料  
取扱明細書」を印刷。「収納証明  
書」部分を切り取り、貼付台紙の  
所定欄に貼る。※左図参照



〈注意〉

携帯電話・スマートフォンでお申込  
みされた方は、プリンタのある環境  
で申込内容照会を行ってください。

- 支払期間については、募集要項を御確認の上、受付期間に間に合うよう十分に余裕をもってお支払いください。
- コンビニエンスストアでのお支払いの場合、「Webサイトでの申込み」は、支払期間終了30分前までとなります。なお、店頭端末機の利用及びクレジットカードでのお支払いの場合の支払期間は、各募集要項でお示しするとおりです。

- E-支払いサイトの「申込内容照会」から収納証明書が印刷できるのは、クレジットカードでお支払いされた場合に限りです。
- カード審査が通らなかった場合は、クレジットカード会社へ直接お問合せください。



周囲は群馬県の象徴である名勝赤城、榛名、妙義の上毛三山を浮き彫りさせて大学を囲み、群馬大学の象徴としています。

## 入 試 情 報

### ■群馬大学ホームページ <http://www.gunma-u.ac.jp/>

「入試案内」において、以下の情報等をお知らせしています。

- 学生募集要項
- 進学相談会・オープンキャンパス等各種イベント案内
- 入試実施状況、入試統計資料
- 入学時の経費（入学金・授業料等）、奨学金情報
- 過去の入試問題
- 資料請求方法

## 入学試験に関する問合せ先

受付時間 8時30分から12時、13時から17時15分（土・日曜日、祝休日、年末年始を除く）  
 本学は主体的に学ぶ姿勢を持つ学生を求めています。問合せは、原則として志願者本人が行ってください。

### ■本要項及び入学試験全般に関するお問合せ

学務部学生受入課

電話 027-220-7150、7151、7152 / FAX 027-220-7155 〒371-8510 前橋市荒牧町4-2

### ■各学部入試担当係

- 教育学部（教務係）  
電話 027-220-7223 〒371-8510 前橋市荒牧町4-2
- 社会情報学部（教務係）  
電話 027-220-7404 〒371-8510 前橋市荒牧町4-2
- 医学部（昭和地区事務部学務課入学試験係）  
電話（医学科）027-220-8910 } 〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22  
（保健学科）027-220-8909 }
- 理工学部（学務係）  
電話 0277-30-1037 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1

LINEとTwitterから入試情報をリアルタイムでお届けします。



[https://page.line.me/gunma\\_uni\\_ad](https://page.line.me/gunma_uni_ad)



[https://twitter.com/gunma\\_uni\\_ad](https://twitter.com/gunma_uni_ad)



この冊子は、再生紙を使用して作成しています